

○基本計画の名称：第2期高崎市中心市街地活性化基本計画

○策定主体：群馬県高崎市

○計画期間：平成26年4月から平成32年3月まで(6年)

1 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1]高崎市の概要

本市は、日本列島のほぼ中央部、群馬県では中西部に位置し、約460 km²の市域を持つ人口約37.5万人の中核市で、東京から約100km、新幹線で約1時間の距離にあります。

古代東国文化の中心であったことから現在でも多くの古墳や史跡が各所にその名残りとどめており、薫り高い文化の形跡を現代に感じさせてくれています。

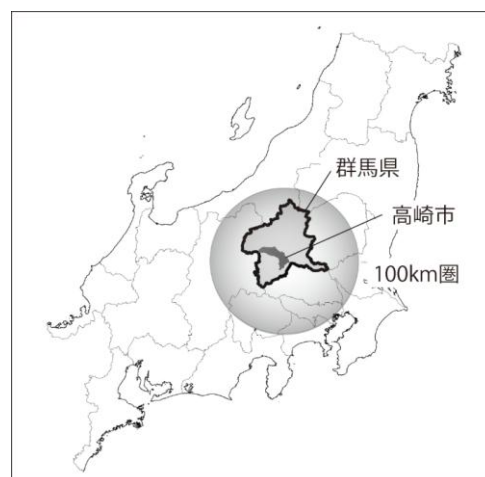
また、約400年前に整備された中山道により、街道随一の宿場町として栄え、「交通の要衝・商人のまち」としての礎が築られました。

明治の近代化とともに東京と鉄道で結ばれ、飛躍的に発展してきた交通網は、関越・上信越・北関東の3本の高速道路、上越・北陸の2本の新幹線、JR在来線5本が結節する全国有数の交通拠点として成長を続けています。

明治33(1900)年に市制を施行し、合併を重ね市域を拡げてきましたが、平成18(2006)年1月に、倉渕村、箕郷町、群馬町、新町、同年10月に榛名町、さらに平成21(2009)年6月に吉井町と合併し、現在の高崎市が誕生しています。

さらに、北陸新幹線の金沢延伸や、関越自動車道の「高崎玉村スマートインターチェンジ」の整備を中心に、新たな集客施設の整備など、北陸・上信越と首都圏を結ぶ中心都市としてさらに飛躍するために、新しいプロジェクトにも取り組んでいます。

■高崎市広域図



■高崎市位置図



[2] 中心市街地の概況

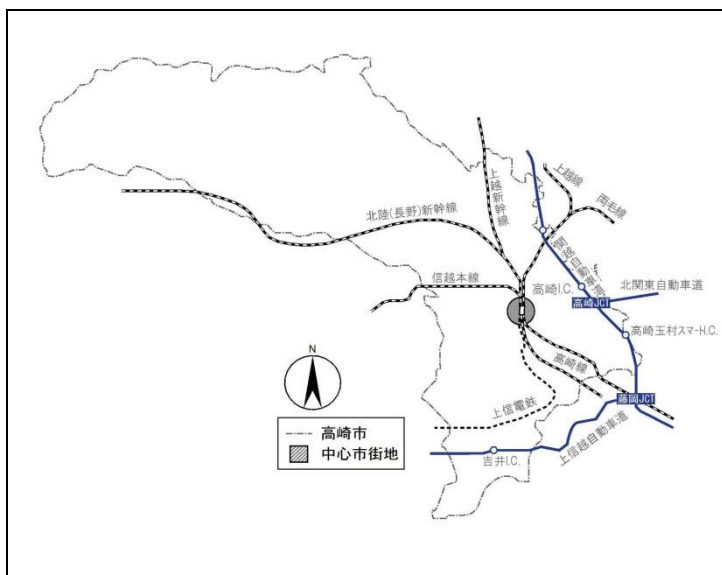
(1) 中心市街地の概要

本市は、1598(慶長 3)年、現在の高松町に高崎城が築かれ、城下町として、また、生糸などの交易が活発な商都として発展してきました。

近代に入ってから、鉄道や道路の結節点として商業都市の性格が強まり、1960年代に入ると中心市街地に百貨店が立地するなど、商業集積が高まりました。こうした中、中心市街地は、田町から鞆町、連雀町へと拡大していき、複数の町で一大商業地を集積しました。

本市の歴史や伝統の下に形成された中心市街地の人口は、昭和 30 年の時点で市全体の約 1/3 を占め、大きな賑わいを見せました。昭和 57 年に上越新幹線、平成 9 年に北陸新幹線(高崎・長野間)が開通し、高崎駅周辺の土地区画整理事業や市街地再開発事業などが進捗したことで、現在では、八島町を中心とした高崎駅西口周辺に商業の中心が移ってきています。

■ 中心市街地の位置



(2) 活発な文化活動と公共公益施設の集積

中心市街地では、市内外の多くの人々が参加する文化活動やイベントが数多く行われています。戦後まもなく発足した「群馬交響楽団」や市民の力を結集して建設された「群馬音楽センター」は、先人たちの志の高さをうかがい知ることができます。この文化を身近に感じとる伝統は、現在の「高崎音楽祭」や「高崎映画祭」、「高崎マーチングフェスティバル」など、様々な文化活動として受け継がれています。

このほか、中心市街地には、市役所、高崎駅市民サービスセンター(パスポートセンター併設)、高崎シティギャラリー、シンフォニーホール、総合保健センター、美術館、タワー美術館、中央図書館、国立病院機構高崎総合医療センター、高崎郵便局、高崎税務署、法務局(支局)、裁判所(支部)など、多くの公共公益施設があります。

(3) 居住人口の増加

中心市街地では、都市基盤整備が進捗するにつれ、民間のマンション建設が活発になりました。市も積極的に再開発事業を行うなど、少子高齢化による人口減少が全国的に問題になる中、本市中心市街地の人口は、増加傾向にあります。

(4) 中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況の分析とその有効活用の方法の検討

① 歴史的・文化的資源

【城下町の名残り】

高崎の都市としての起源は、1598(慶長 3)年、徳川四天王の一人、井伊直政が、中山道の整備によって交通の要衝となった和田の地に、箕輪から城を移し、地名を高崎と改めたことに始まります。城下町としての伝統をもつ中心市街地には、高崎城や高崎藩にまつわる文化財として、乾櫓、東門、土塁やお濠をはじめ、高崎公園のはくもくれん、大信寺の徳川忠信の墓などがあります。



■高崎城址(乾櫓)

また、当時の商人、職人たちが住んでいた連雀町、鍛冶町、鞘町、檜物町といった町名が現存し、数が少ないながらも江戸時代から営まれている商家の蔵などもあり、町割りや通りも存在するなど、往時の様子を偲ぶことができます。

【音楽のある街】

1945(昭和 20)年、戦後の荒廃期に、日本の地方管弦楽団の草分け的な存在である高崎市民オーケストラが創設されました。現在では、群馬交響楽団として、国内に留まらず、海外の音楽祭からも招待を受けるなど、活動の範囲を広げています。1961(昭和 36)年には、音楽に対する市民の気運の高さを背景に、世界的な建築家、アントニン・レーモンド氏が設計した群馬音楽センターが完成し、現在でも多くの市民から愛着をもって親しまれています。このほか、高崎音楽祭や高崎マーチングフェスティバルなど、音楽に関連したイベントが数多く開催されています。また、シンフォニーホールや若者から絶大な支持を受けているライブハウス club FLEEZ があるなど、音楽を行う環境も整っています。全国的に有名なロックバンドを輩出したことや、クラシック、ロック、邦楽など、幅広いジャンルのイベントが盛んであることから、本市は、老若男女を問わず「音楽のある街」として認知されています。



■群馬音楽センター



■群馬交響楽団

【賑わいのあるイベントや文化活動】

本市では、市民が参加し楽しむことを目的とした「高崎まつり」や「高崎えびす講市」、高崎ならではの視点で選定した映画の祭典「高崎映画祭」など、多くのまつりやイベントが開催されており、これらは本市独自の個性的な芸術を創り上げています。

また、中心市街地には、気軽に芸術に触れることのできる施設が多数あります。美術館では、市民の貴重な文化資産である収蔵作品を鑑賞することができ、タワー美術館では、近現代の日本画の作品を中心に鑑賞できます。さらに、市民の創作意欲の向上に資する発表の場として高崎シティギャラリーがあり、日常的に芸術と触れ合える環境が整っています。



■高崎まつり

【都市ブランド】

本市には、全国的に有名な「高崎だるま」があり、国内シェアの約 8 割を生産しています。毎年 1 月には「少林山七草大祭だるま市」が開催され、市内外から福を求めて訪れる多くの人で賑わいます。

また、高崎は小麦の産地でもあることから、「高崎うどん」や「パスタ」として多くの市民に親しまれています。中心市街地にも多くの店舗が立地しており、高崎の粉文化を牽引しています。



■高崎だるま

② 景観資源

中心市街地西側に広がる城址地区には、高崎城の面影を今に伝えるお濠が現存しています。春には、このお濠の土塁に植えられている桜が見事な花を咲かせ、市民の心を和ませています。この辺りには、高崎公園や城址公園、もてなし広場などがあり、貴重な文化資産の群馬音楽センターと景観が調和しています。

また、中心市街地の北側は、蔵や商家、路地などが残っており、宿場町として栄えた足跡を感じることができます。

一方、高崎駅の東西では、複数の大型商業ビルやホテル、業務ビルやマンションなど、中高層の建物が立ち並び、都会的風景が形成されています。このビルの合間には、アントニン・レーモンドの私邸を参考に建てられた「旧井上房一郎邸」があり、喧騒と静けさ、両面を兼ね備えた貴重な地区になっています。また、高崎駅と市役所を結ぶシンフォニーロードは、電線類が地中化されるとともに歩道が整備され、緑豊かな街路樹が季節を感じさせてくれる中心市街地の主要な景観軸となっています。



■城址地区の桜

③ 社会資本と産業資源

本市の中心市街地には、上越・北陸新幹線をはじめ、JR 在来線や上信電鉄が乗り入れる高崎駅があります。高崎駅は 1 日約 3 万人の乗客があり、乗降客では約 6 万人が行き交う、県内随一のターミナル駅で、郊外の大学や企業へ向かう通勤通学の発着点ともなっています。駅の利便性が良いことが、学生や雇用の増加に繋がり、市全体の活力を向上させる結果になっています。駅の中には、商業や飲食など様々な施設があり、

活気に満ちています。高崎駅の東西では、土地区画整理事業が進捗し、市街地再開発事業とともに都市基盤の向上に大きく貢献しました。市街地再開発事業は、全国でも高水準にあり、現在の都市の基礎をつくりました。

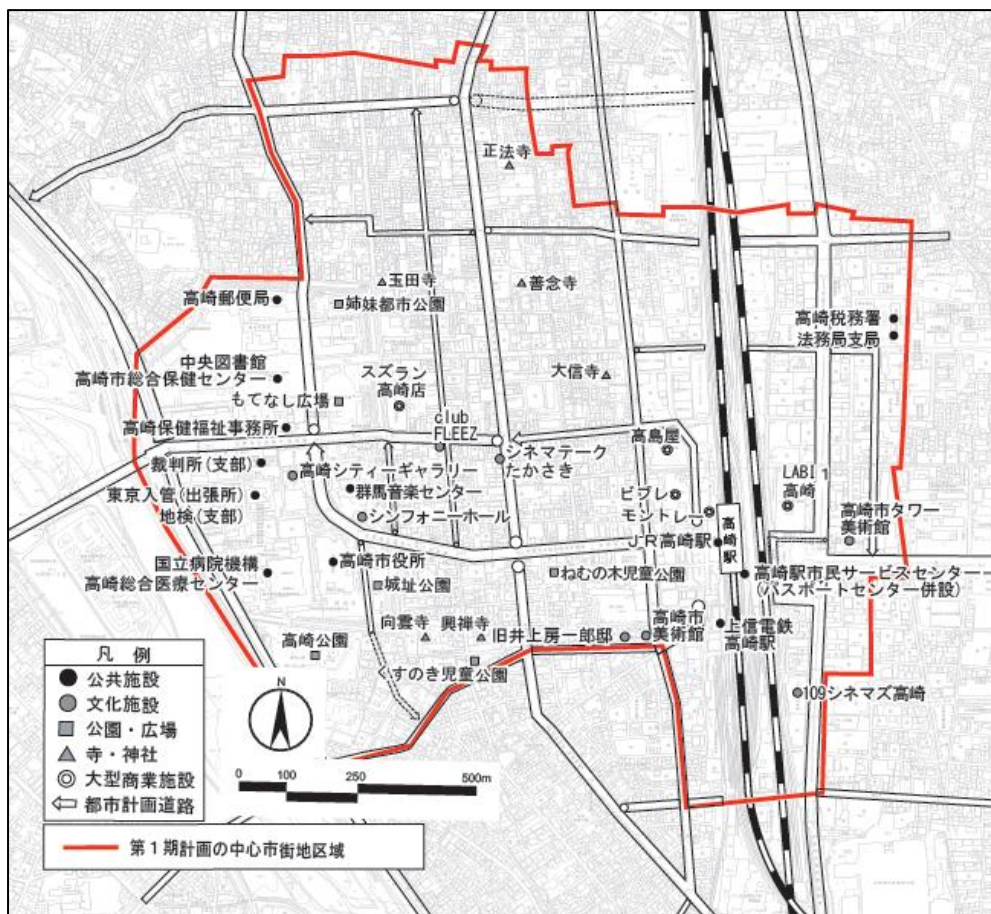
また、高崎駅西口には、モントレーや高島屋、ビブレ、スズランがあり、東口にはヤマダ電機(LABI1 高崎)が立地しています。この 5 つの大型商業施設と商店街を中心に形成される商業地は、北関東でもトップクラスの集積を誇っています。

さらに、中心市街地には、柳川町をはじめとする飲食の集積地が複数あり、業務系と飲食系が融和したまちとなっています。

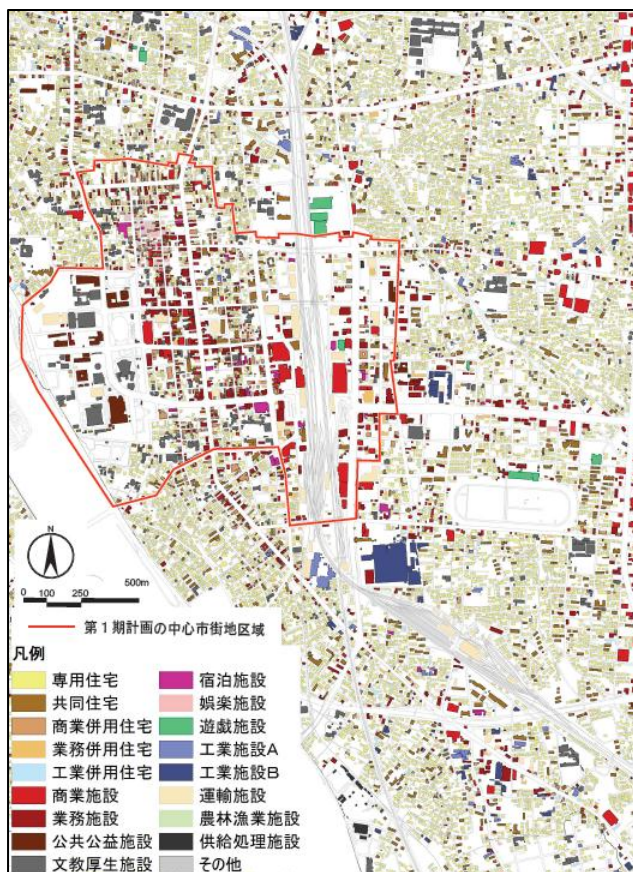


■JR 高崎駅中央コンコース

■既存ストック分布図



■建物用途現況図



(5) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

① 人口に関する現状分析

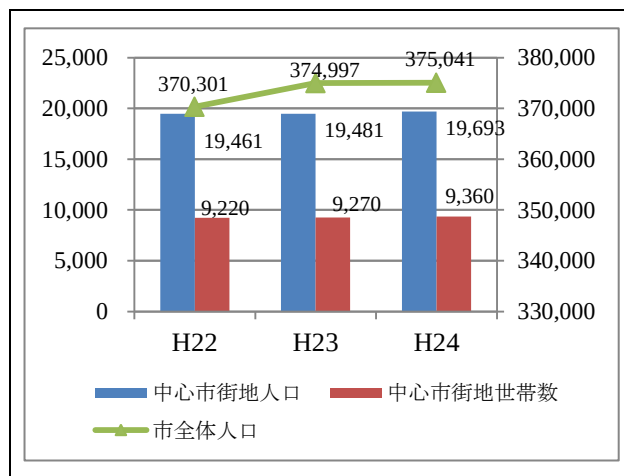
【人口の推移】

本市の人口は、群馬県の人口が減少する中であっても増加傾向を示しており、平成 22 年に対して平成 24 年の人口は、4,740 人増加しています。

中心市街地でも同様の傾向を示しており、平成 22 年に対して平成 24 年の人口は 232 人増加しています。

これは、中心市街地で土地区画整理事業や市街地再開発事業などの都市基盤整備が進捗したことにより、民間の投資意欲が喚起され、マンション建設が進んだことが要因として挙げられます。

しかし、次ページのグラフのとおり、将来の人口推計では、少子高齢化が進むと予測されていることから、活気のあるまちづくりを継続して行い、選ばれる都市となる必要が依然としてあります。



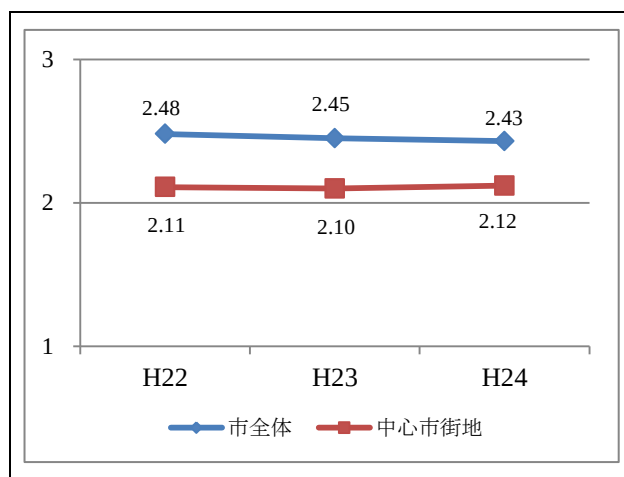
■ 中心市街地の人口(人)と世帯数(世帯)

資料：住民基本台帳

【世帯数の推移】

世帯数も人口の推移と同じ経過をたどっており、平成 22 年に対して平成 24 年の本市の世帯数は、140 世帯増加しています。

しかし、1 世帯あたりの人員(市全体 2.43 人/世帯、中心市街地 2.12 人/世帯)を比較すると、中心市街地がやや下回って推移していることから、核家族化やマンション居住者の特性が表れる結果となっています。

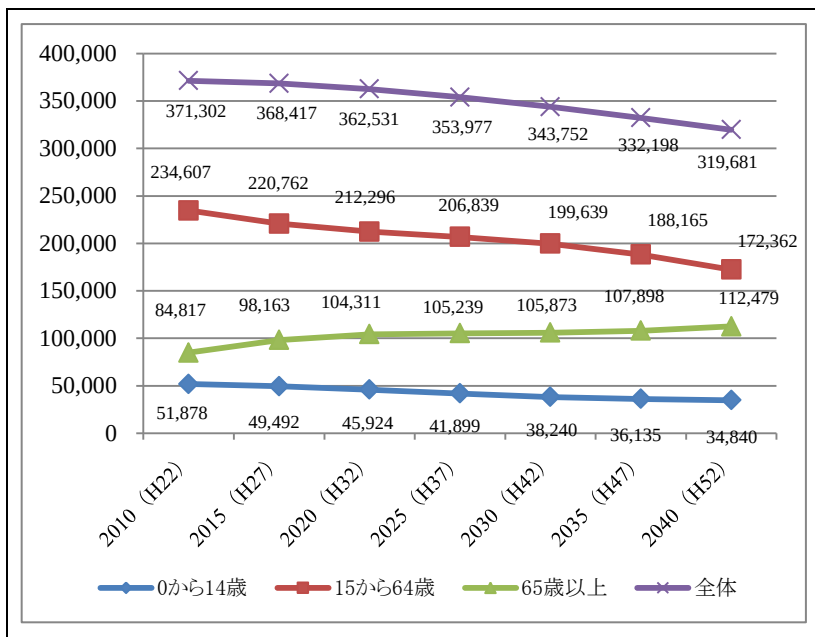


■ 市全体と中心市街地の世帯人員(人)

資料：住民基本台帳

【町丁目別の人口】

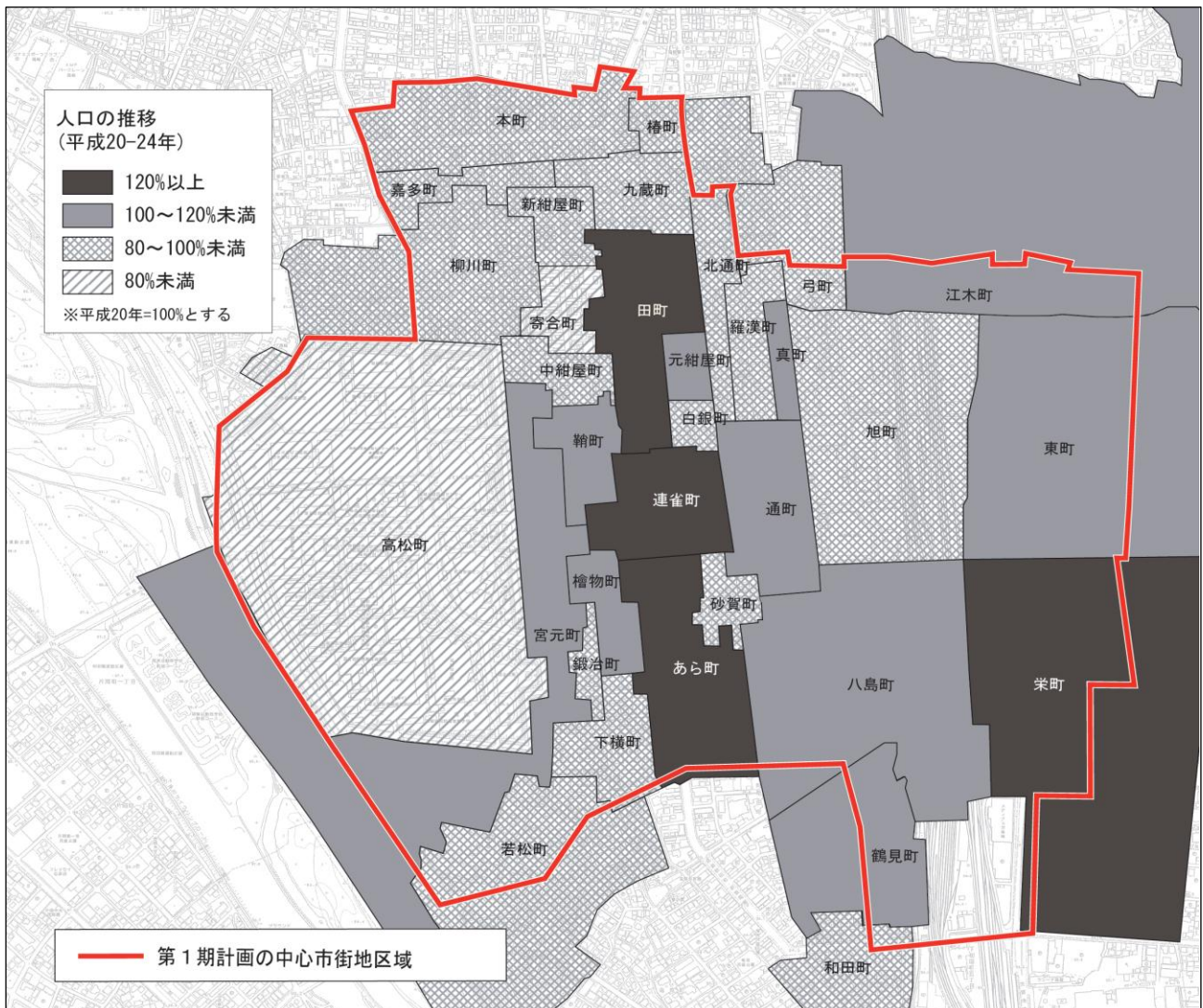
町丁目別の人口推移をみると、平成 20 年から 24 年にかけて第 1 期基本計画 34 町のうち、約半数の 15 町で増加しています。増加率の高い町は、高崎駅周辺のあら町や連雀町、このほか、東町や田町などマンションが多数立地する箇所となっています。



■本市の将来推計人口(人)

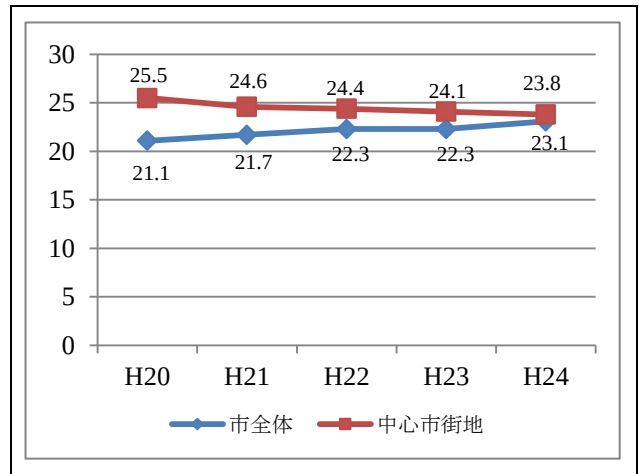
資料:日本の地域別将来人口(国立社会保障・人口問題研究所)

■町丁目別の人口増減率(平成20年から24年)



【高齢化の状況】

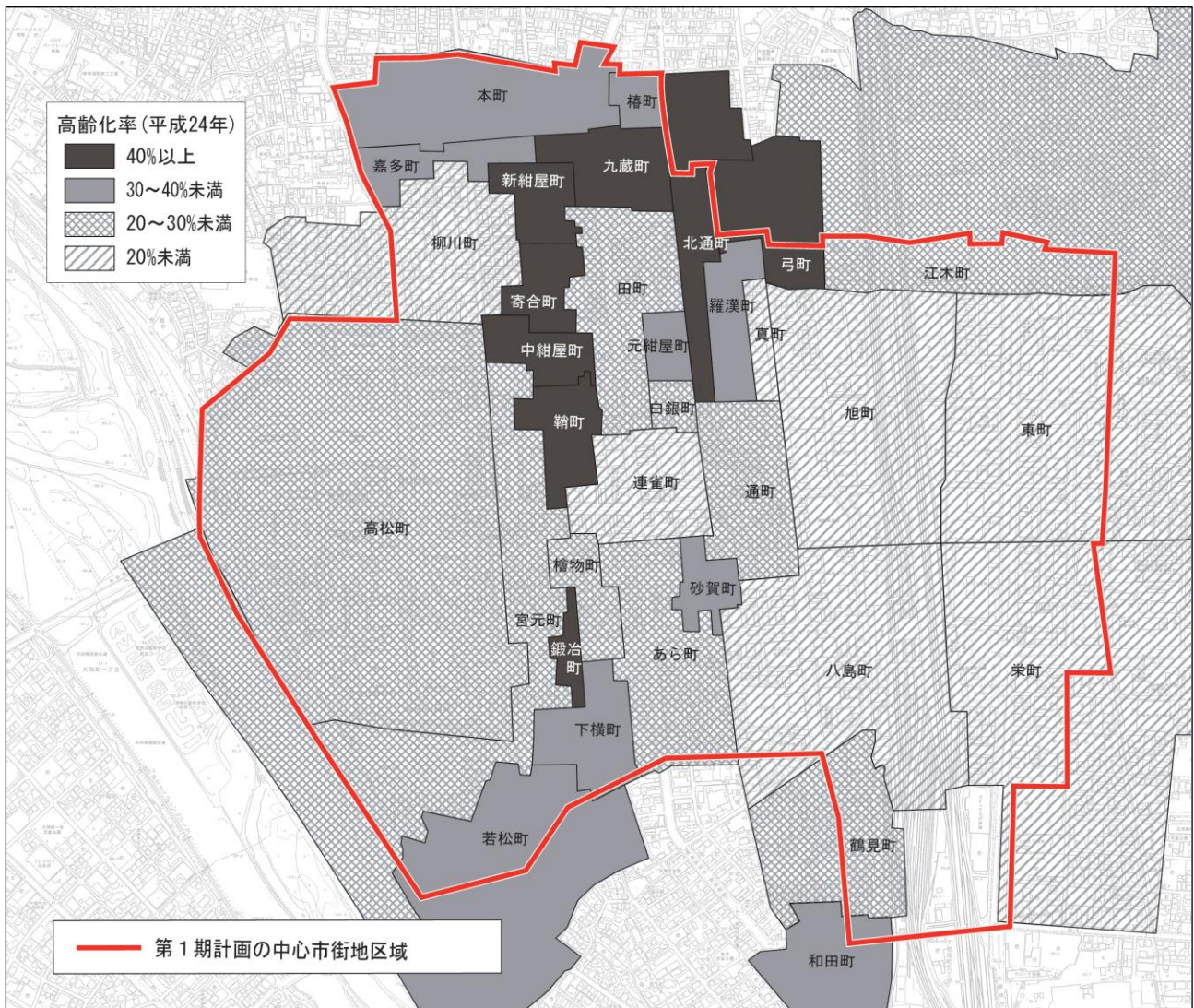
少子高齢化の進展に伴い、全国の高齢化率が上昇傾向にあります。本市でも全体の高齢化率が平成 24 年で 23.1%となっています。中心市街地の高齢化率は、市全体と比較して高かったものの、ファミリー層のマンション志向の強まりなどを受け、現在ではその差は縮小されてきています。町丁目別に見ると、人口が減少している町で高齢化率が高く、人口の増減と強く関連していることが伺えます。



■市全体と中心市街地の高齢化率(%)

資料：住民基本台帳

■町丁目別の高齢化率(平成 24 年)

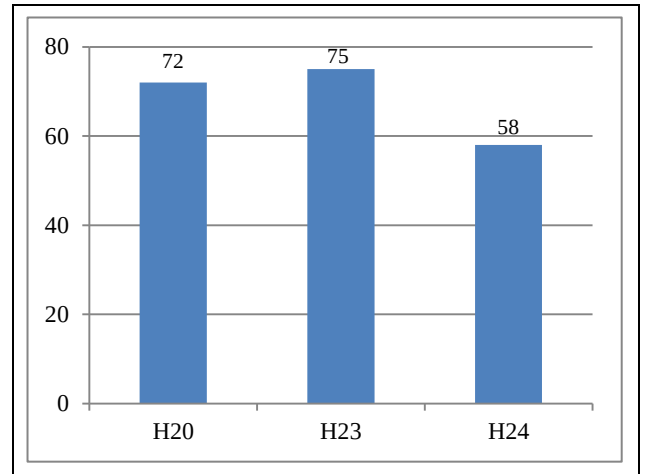


【マンション立地】

中心市街地では、社会資本整備の進展により、民間のマンション建設が活発に行われています。平成 16 年から平成 19 年には、年平均 200 戸以上が供給されました。

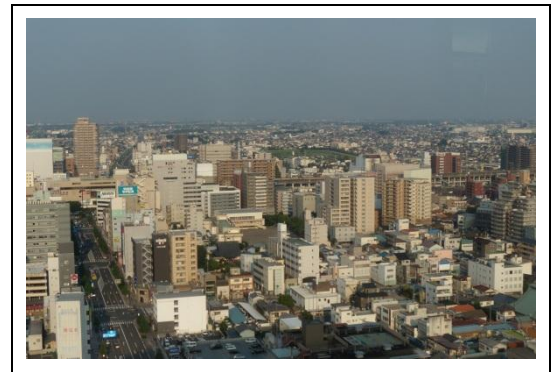
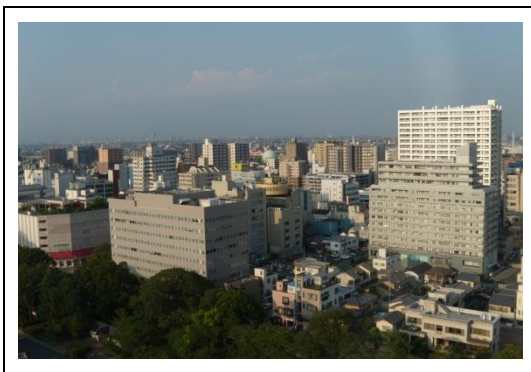
平成 20 年から平成 24 年も戸数は減少しましたが、合計で 205 戸のマンション住宅が供給されています（※平成 21 年、平成 22 年の中心市街地におけるマンションの建設はなし）。これまでは、高崎駅から 0.5km 圏内に建設が多かったものが、駅の利便性の向上などを背景に、駅近辺の駐車場などの敷地に建設されるケースが増えています。

また、平成 25 年は、7 月の時点で計画中のマンション（5 階建て以上）が 6 棟あり、約 400 戸の供給が予定されていることから、中心市街地を居住の拠点とする需要はまだまだ高いことが推測されます。



■中心市街地のマンション住宅供給数(戸)

資料:高崎市開発指導課



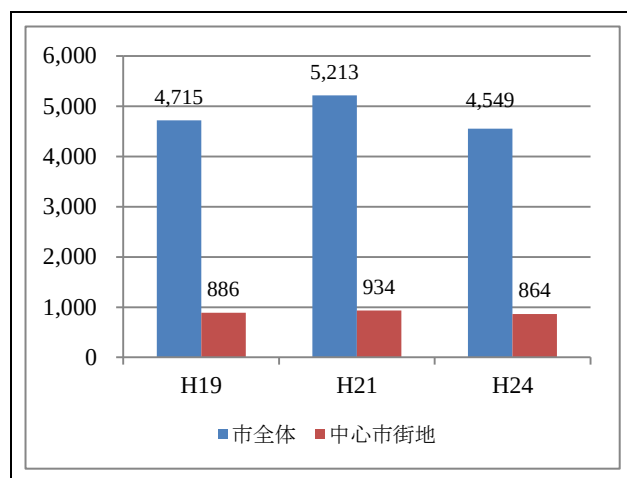
■中心市街地のマンション立地

② 商業に関する現状分析

【店舗数】

市全体の卸売業・小売業の店舗数は、平成 21 年に増加を示しましたが、平成 19 年と比較して平成 24 年は 3.5%の減少となっています。中心市街地でも同様に減少(3.5%)していますが、これは、長引いた景気の低迷や後継者不足などが原因であると推測されます。

しかし、近年では、高崎駅の周辺で実施されている土地区画整理事業などの社会資本整備や店舗の支援事業により、新たな出店や改装が進んでいます。



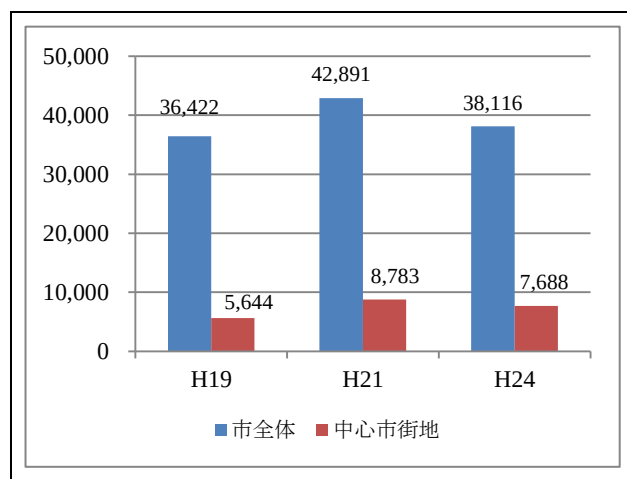
■卸売業・小売業の店舗数(店)

資料：H19 商業統計調査、H21・24 経済センサス

【従業者数】

卸売業・小売業の従業者数も店舗数と同様の傾向を示しており、店舗の減少による影響が関連していると考えられます。

しかし、中心市街地の割合が市全体と比較して約 20%を占めることから、働く場所として中心市街地が求められていることが推測できます。



■卸売業・小売業の従業者数(人)

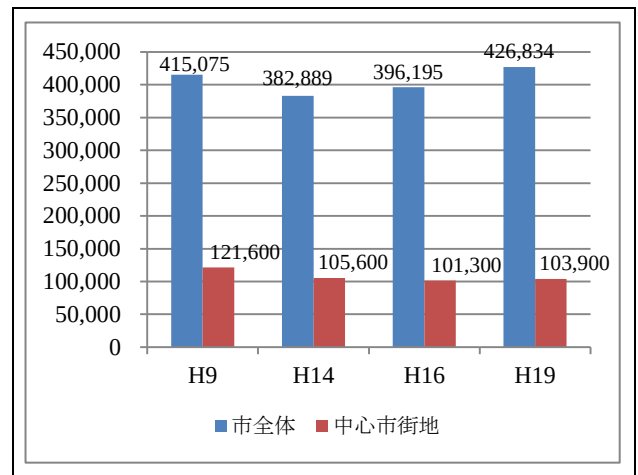
資料：H19 商業統計調査、H21・24 経済センサス

【小売業年間商品販売額】

小売業年間商品販売額は、平成14年と平成19年を比較すると、市全体で11.5%の増加となっています。

中心市街地は減少傾向でしたが、平成16年から平成19年にかけて増加に転じています。

市の調査で、平成21年から平成23年にかけては、中心市街地における再開発事業による核店舗の誘致等の効果が現れ、これまでの減少に歯止めがかかったことが分ります。



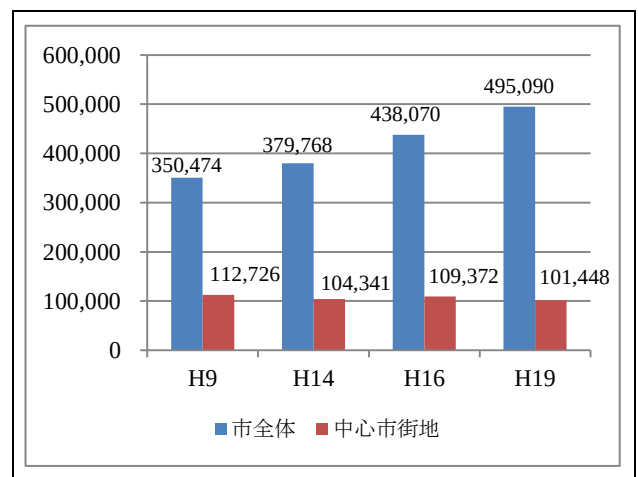
■小売業年間商品販売額(百万円)

資料: 商業統計調査

【売場面積】

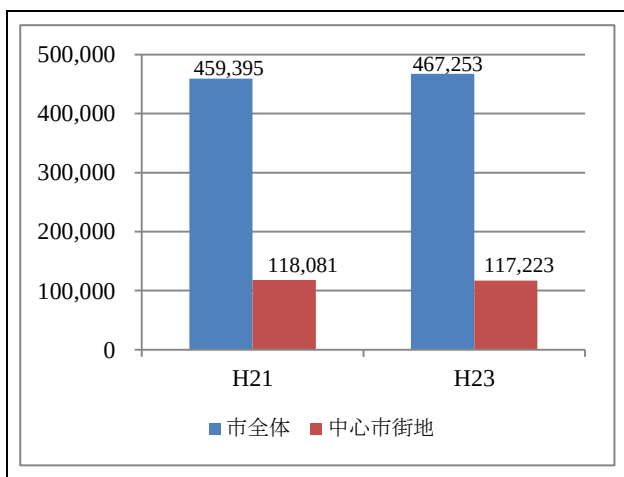
売場面積は、平成9年から平成19年にかけて、市全体で41.3%の増加となっていますが、中心市街地は減少傾向となっています。

市の調査で、平成21年から平成23年にかけては、小売業年間商品販売額と同様に、中心市街地の再開発事業による核店舗の誘致等の効果が現れ、減少に歯止めがかかったことが分かります。



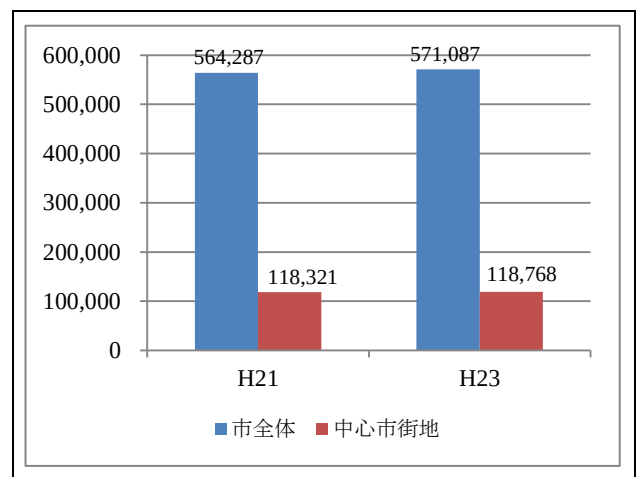
■売り場面積(㎡)

資料: 商業統計調査



■[補足]小売業年間商品販売額(百万円)

資料: 高崎市産業政策課推計



■[補足]売り場面積(㎡)

資料: 高崎市産業政策課推計

【商店街の形成】

中心市街地には、平成 24 年 9 月現在、22 の商店街が形成されており、加入商店数は 609 店となっています。商店街で行うイベントも数多くあり、活力と賑わいの向上に取り組んでいます。

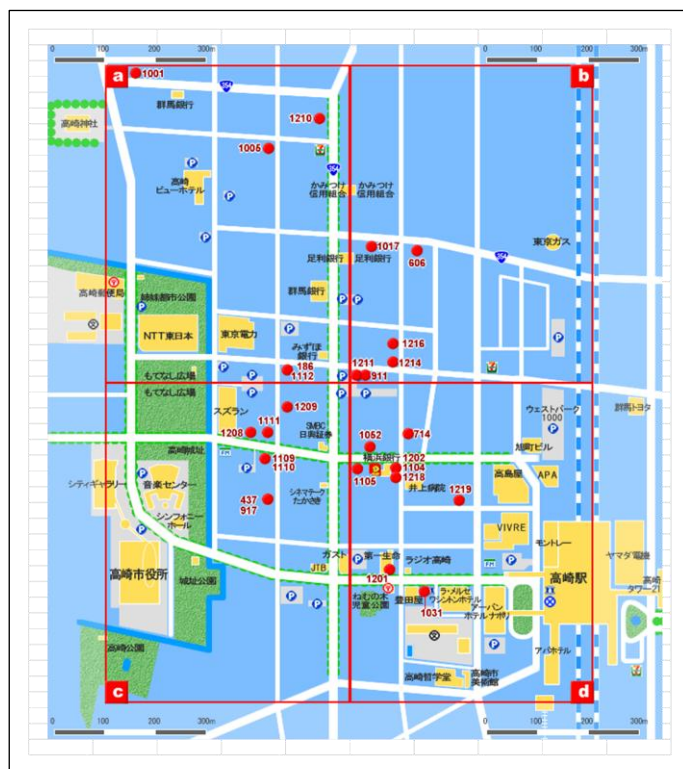
■商店街一覧

	商店街名	商店数		商店街名	商店数
①	高崎駅前通り商店街振興組合	24	⑬	東一条通り商店会	15
②	あら町南大通り商店街	31	⑭	高崎五番街	17
③	協同組合高崎駅西口中央名店街	25	⑯	高崎中央銀座商店街振興組合	35
④	高崎レンガ通り商店街組合	42	⑰	高崎銀座みゆき通り商店街組合	12
⑤	ハナハナストリート	37	⑱	えびす通り商店街	21
⑥	西口一番街商店街	32	⑲	高崎田町一丁目アーケード会	4
⑦	下横町商工振興会	29	⑳	田町繁栄会	23
⑧	高崎南銀座商店街振興会	38	㉑	本町商店会	39
⑨	商店街振興組合高崎中部名店街	68	㉒	九蔵町・本町三丁目名店会	20
⑩⑪	大手前慈光通り商店街組合	47	㉓	高崎田町三丁目共栄会	10
⑫	高崎大通り商店街組合	16	㉔	高崎八間道路商店会	24
合計					609

※平成 24 年 9 月現在



■商店街分布図



■空き店舗の位置

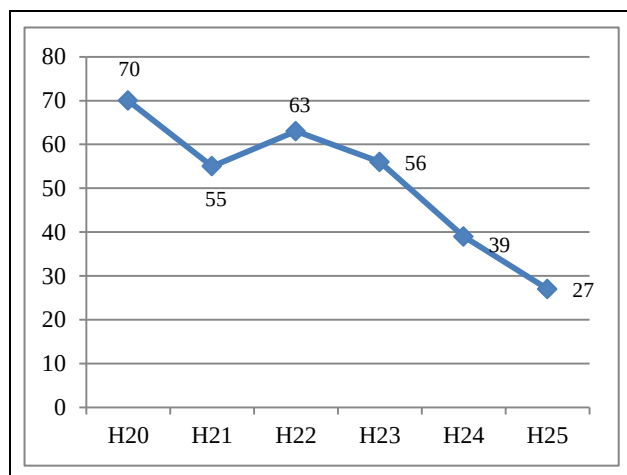
情報公開物件(平成 25 年 4 月時点)

【空き店舗とテナントの状況】

空き店舗は減少傾向を示しており、平成 25 年（4 月時点）は平成 20 年との比較で 43 店（61%）減っています。

しかし、今後も後継者不足や店主の高齢化が進むことが予測されることから、空き店舗の推移は中心市街地の活力を計る上でも注視していくことが重要です。

また、テナント空室率も改善されており、民間の調査では、北関東の主要都市と比較してもトップの改善率を示しています。この結果から、高速交通網が整備されたことにより、選ばれる都市として、本市のポテンシャルの高さを伺うことができます。



■空き店舗の推移(店)

資料：高崎市商工振興課

【大規模小売店舗の立地状況】

本市には、店舗面積が 10,000 m²を超える大規模小売店舗が 9 店あり、そのうち 4 店が中心市街地に立地しています。近年では、平成 18 年に、郊外の幹線道路沿いに「イオンモール高崎」が進出しました。中心市街地でも、平成 20 年にヤマダ電機（LABI1 高崎）が立地しましたが、前橋市の工場跡地に「けやきウォーク前橋」が、また、北関東自動車道前橋南 IC 付近にベイシアやコストコなど複数の大規模小売店舗が集積する「パワーモール前橋みなみ」が立地するなど、本市の中心市街地を取り巻く地域間競争は、激しさを増しています。

■5,000 m²以上の大規模小売店舗の概要

店舗名	業態	店舗面積	業者数	主な小売業者	地域	駐車台数	開店時間	閉店時間	開店年月
UNICUS 高崎	総合スーパー	6,550	11	ヤオコー	高崎	345	8:00	0:00	2008.11
ACT ビル	その他	8,776	1	ビー・リング	高崎	470	24 時間		2008.04
カワチ薬品大八木店	住・生活関連	17,070	3	LIXIL ビバ	高崎	1,185	7:00	20:00	2006.02
スズラン高崎支店	百貨店	20,233	3	スズラン	中心市街地	804	10:00	20:00 以前	1970.11

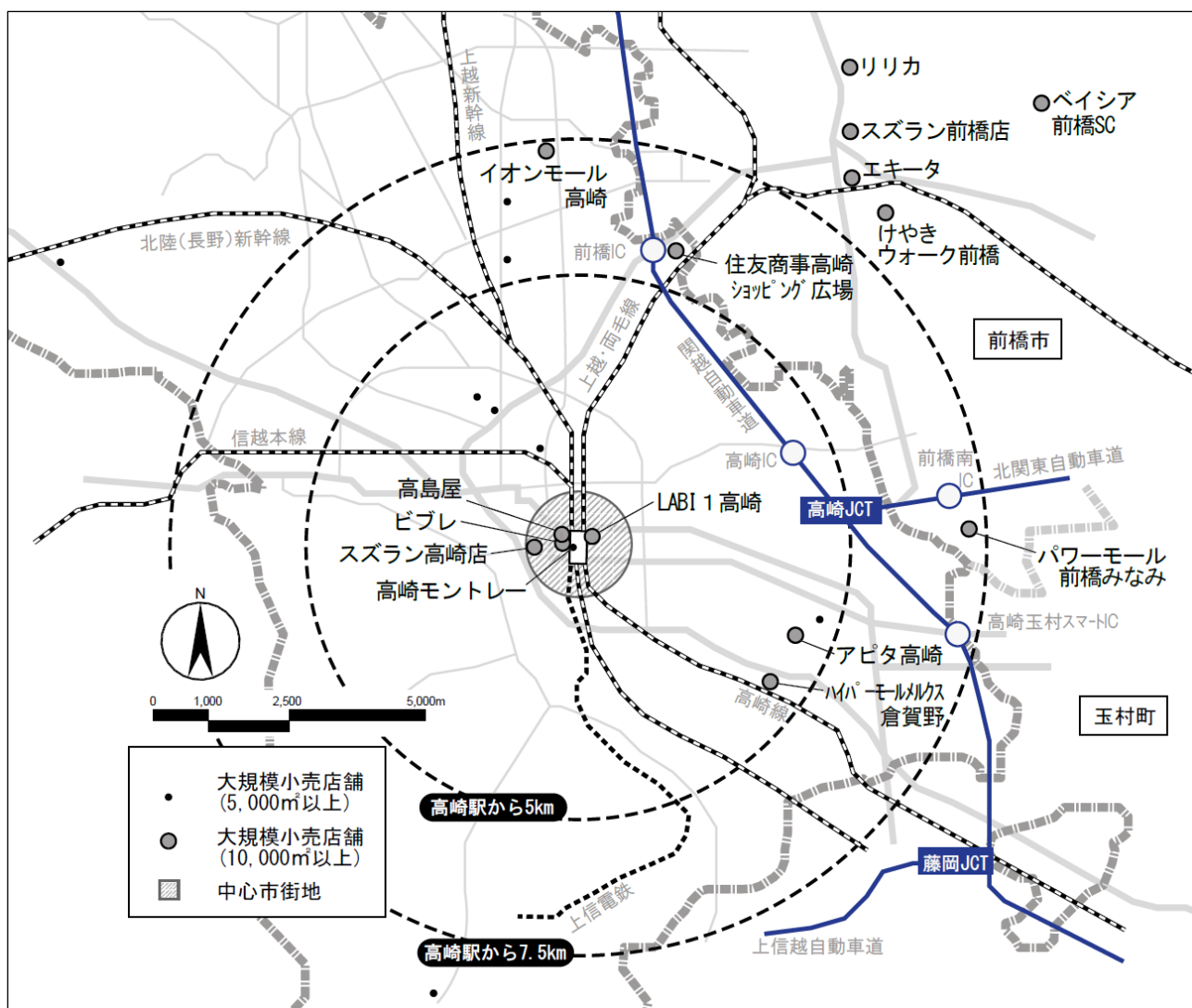
住友商事高崎ショッピング広場	総合スーパー	11,411	7	ヒマラヤ	高崎	941	9:00	22:00	1995.04
セキチュー高崎矢中店	住・生活関連	6,946	1	セキチュー	高崎	443	9:00	21:00	2002.04
第2ウエノハラビル	住・生活関連	5,483	1	ニトリ	高崎	136	10:00	21:00	1994.05
高崎ショッピングデパート	総合スーパー	13,059	4	マイカル	中心市街地	634	9:00	22:00	1976.03
高崎ターミナルビル	その他	8,929	69	大創産業	中心市街地	307	10:00	21:00	1982.04
高崎高島屋	百貨店	17,349	1	高崎高島屋	中心市街地	352	10:00	20:00以前	1961.10
ハイパーモールメルクス倉賀野	総合スーパー	13,248	10	ミスターマックス	高崎	928	8:00	22:00	1996.03
ホームマートセキチュー高崎店	住・生活関連	5,326	1	セキチュー	高崎	257	10:00	20:00	1976.11
ユニー高崎店	総合スーパー	11,662	10	ユニー	高崎	711	10:00	21:00	1996.04
LABI1 高崎	住・生活関連	20,821	1	ヤマダ電機	中心市街地	975	10:00	23:00	2008.07
イオンモール高崎	総合スーパー	44,370	101	イオンリテール	群馬	3,300	8:00	0:00	2006.10
とりせんファミリープラザ群馬町店	総合スーパー	5,649	11	サントリア	群馬	220	9:00	0:00	1979.11
はるなショッピングタウン	総合スーパー	9,777	10	コメリ	榛名			20:00	1996.07
ベイシア吉井店	総合スーパー	5,814	3	ベイシア	吉井			20:00以前	1981.06

資料:群馬県大規模小売店舗名簿(平成24年6月):群馬県産業経済部商政課

※網掛けは、中心市街地に立地する店舗面積10,000㎡以上の店舗

※はるなショッピングタウン、ベイシア吉井店は、資料元に記載がないため空欄としている

■本市と周辺市町の大規模小売店舗の立地

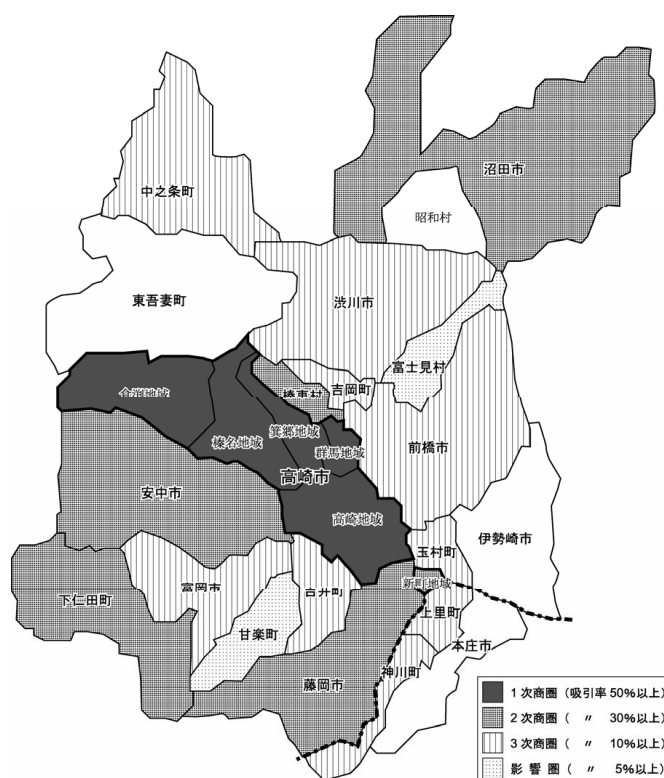


【商圏の形成】

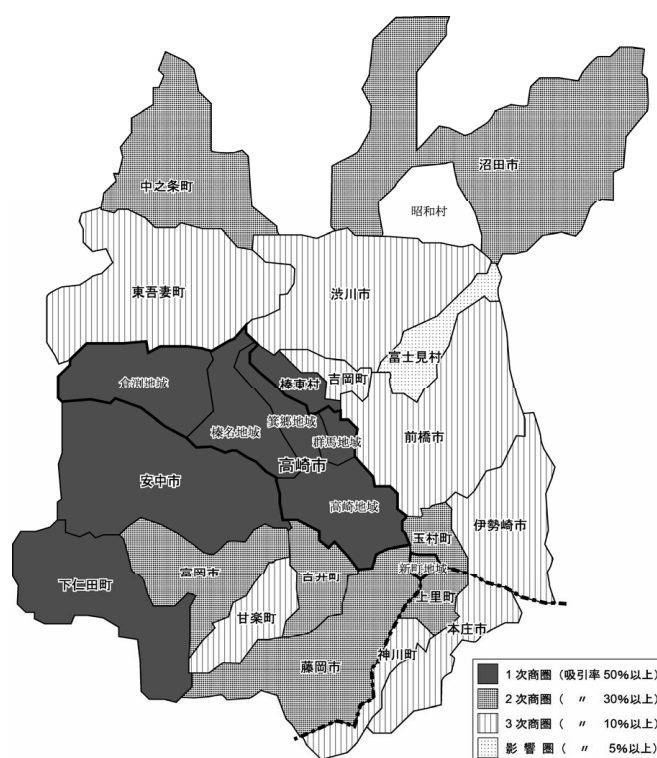
本市の中心市街地は、県内をリードする商業の中心で、市内外を問わず広い
 商圈を有しています。

買回り品(婦人もの洋服)や中間品(肌着、靴下など)の購買傾向を、「買い物行動と意識に関する調査(平成 20 年 3 月)」から見てみると、買回り品、中間品ともに、安中市(買回り品 55.0%、中間品 33.0%)、藤岡市(買回り品 49.2%、中間品 32.1%)、沼田市(買回り品 45.0%、中間品 31.6%)、富岡市(買回り品 43.6%、中間品 29.3%)が高い吸引率を示しています。

このほか、近年では、高速交通を活用し、埼玉、新潟、栃木、長野などからの買い物客も増えています。（※吉井町は、平成 21 年 6 月に合併）



■ 中間品の商圏

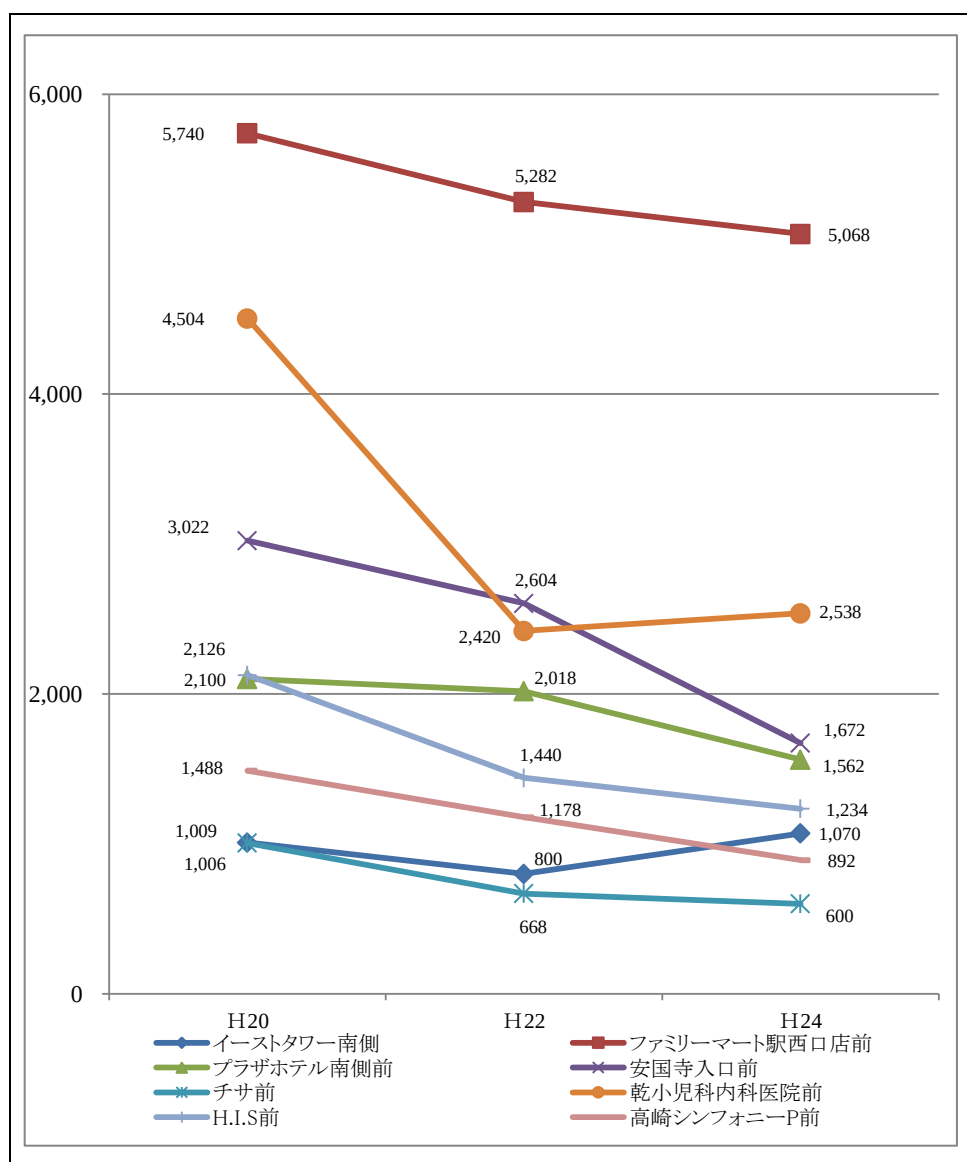


■買回り品の商圏

用語	説明
中間品	実用衣料品（肌着・靴下など）
買回り品	婦人ものの洋服
吸引率	世帯調査から買い物先として「最も多い」と回答された選択肢に 2 点、「2 番目に多い」に 1 点を与え、その合計を品目ごとに求めた後、市町村ごとの総合計点数で除したものの。
商圏ランク	1 次商圏：吸引率 50% 以上 2 次商圏：吸引率 30% 以上 50% 未満 3 次商圏：吸引率 10% 以上 30% 未満 影響圏：吸引率 5% 以上 10% 未満

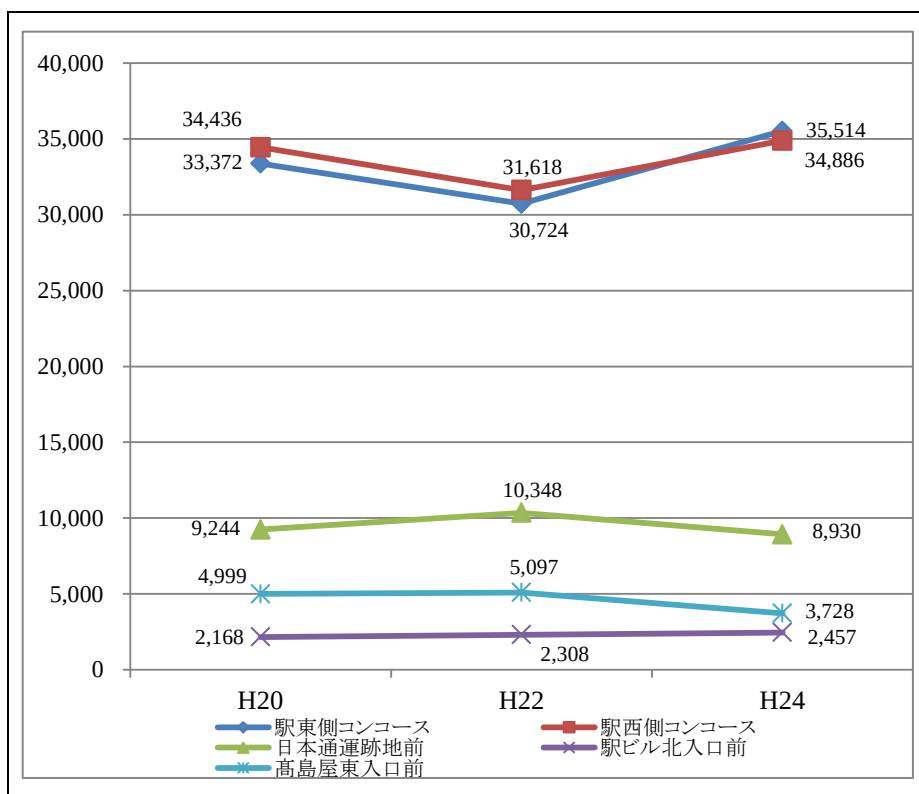
【歩行者・自転車通行量】

中心市街地の歩行者・自転車通行量は、第 1 期基本計画の調査地点のうち、イーストタワー南側を除く 7 地点で減少しているうえ、第 2 期基本計画で新たに加えた調査地点を合わせた数値（ホテルサンコー前は、平成 24 年から調査を開始したためここでは含めない）で見ると、通行量の多かった地点は、駅東側及び駅西側コンコース、高島屋東入口前、日本通運跡地前でしたが、駅の東西コンコース、駅ビル北入口前以外は、全ての調査地点で減少していることから、中心市街地の歩行者・自転車通行量は、回復するには至っていません。



■ 中心市街地（第 1 期基本計画 8 地点）の歩行者自転車通行量（人）

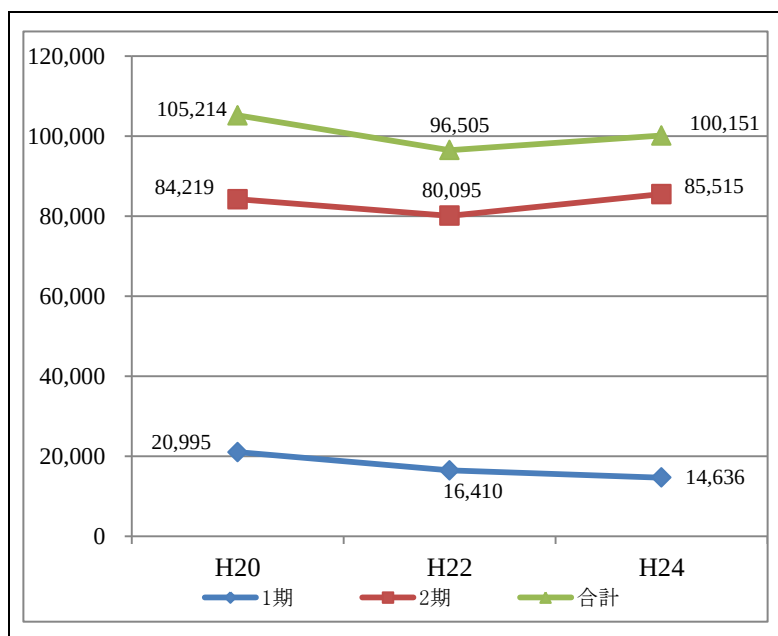
資料：高崎市中心市街地通行量動向調査



■ 中心市街地(第2期基本計画追加調査地点)の歩行者・自転車通行量(人)

※ホテルサンコー前はH24から追加のため、このグラフには含まない

資料: 高崎市中心市街地通行量動向調査



■ 第1期基本計画と第2期基本計画の調査地点を合わせた歩行者自転車通行量(人)

※ホテルサンコー前はH24から追加のため、このグラフには含まない

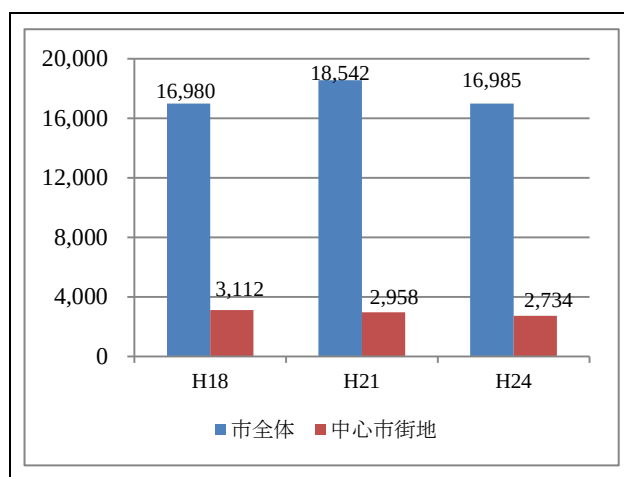
資料: 高崎市中心市街地通行量動向調査

③ 事業所に関する現状分析

【事業所数】

市全体の平成 24 年全産業事業所数は、平成 21 年と比較して 8.3%の減少となっています。中心市街地でも同様に減少(7.5%)していますが、これは、長引いた景気の低迷が影響していると考えられます。

しかし、近年では、市の奨励金等を活用した新規の企業立地が進むとともに企業流出に歯止めがかかり、市全体に占める中心市街地の割合も横ばいで推移しています。



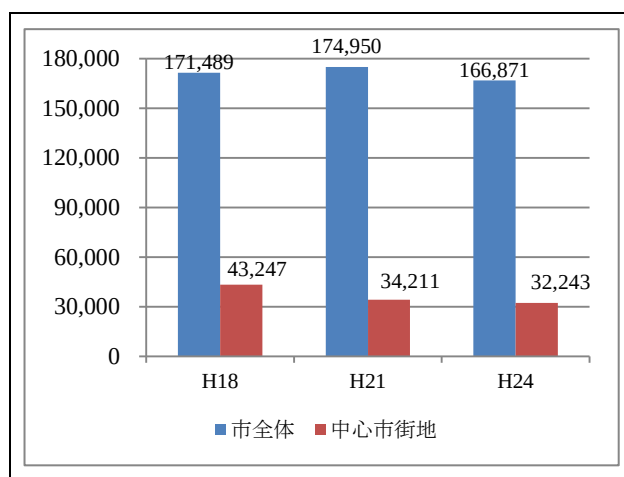
■ 事業所数(事業所)

資料：H18 事業所・企業統計調査、H21・24 経済センサス

【従業者数】

従業者数も事業所数と同様に減少の傾向を示していますが、中心市街地で働く人の割合は、約 20%となっています。

このことから、全産業の約 5 人に 1 人が中心市街地で働いていることになり、高い割合を示しています。



■ 従業者数(人)

資料：H18 事業所・企業統計調査、H21・24 経済センサス

④ 都市福利施設等に関する現状分析

中心市街地には、群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、シンフォニーホール、美術館、タワー美術館、旧井上房一郎邸、シネマテークたかさき、109 シネマズ高崎、club FLEEZ といった文化・娯楽施設が多数立地しており、これらの施設が本市の文化や音楽、芸術のまちとしてのイメージをつくっています。

また、市役所、高崎駅市民サービスセンター(パスポートセンター併設)、国立病院機構高崎総合医療センター、高崎郵便局、高崎税務署、法務局(支局)、裁判所(支部)など、多くの公共公益施設があり、市民サービスの利便性が高く、コンパクトに集中している都市構造となっています。

さらに、平成 23 年には中央図書館が中心市街地に移転し、総合保健センターとともに新しい拠点を形成しています。

■都市福利施設の分布



⑤ 市街地整備に関する現状分析

本市の中心市街地は、商と住が混在し、細街路が多い密集市街地でしたが、上越新幹線の整備をきっかけに大きく変貌しました。中心市街地の顔とも言える高崎駅のリニューアルに始まり、土地の合理的かつ健全な高度利用、さらに都市機能の更新を図るため、市街地再開発事業や土地区画整理事業を数多く実施してきました。

結果として、優良建築物等整備事業などを含め 26 地区の再開発事業と 8 箇所の土地区画整理事業を実施(施工中を含む)しました。この数は、全国でもトップクラスで、人口増やまちの活性化に大きく寄与しています。

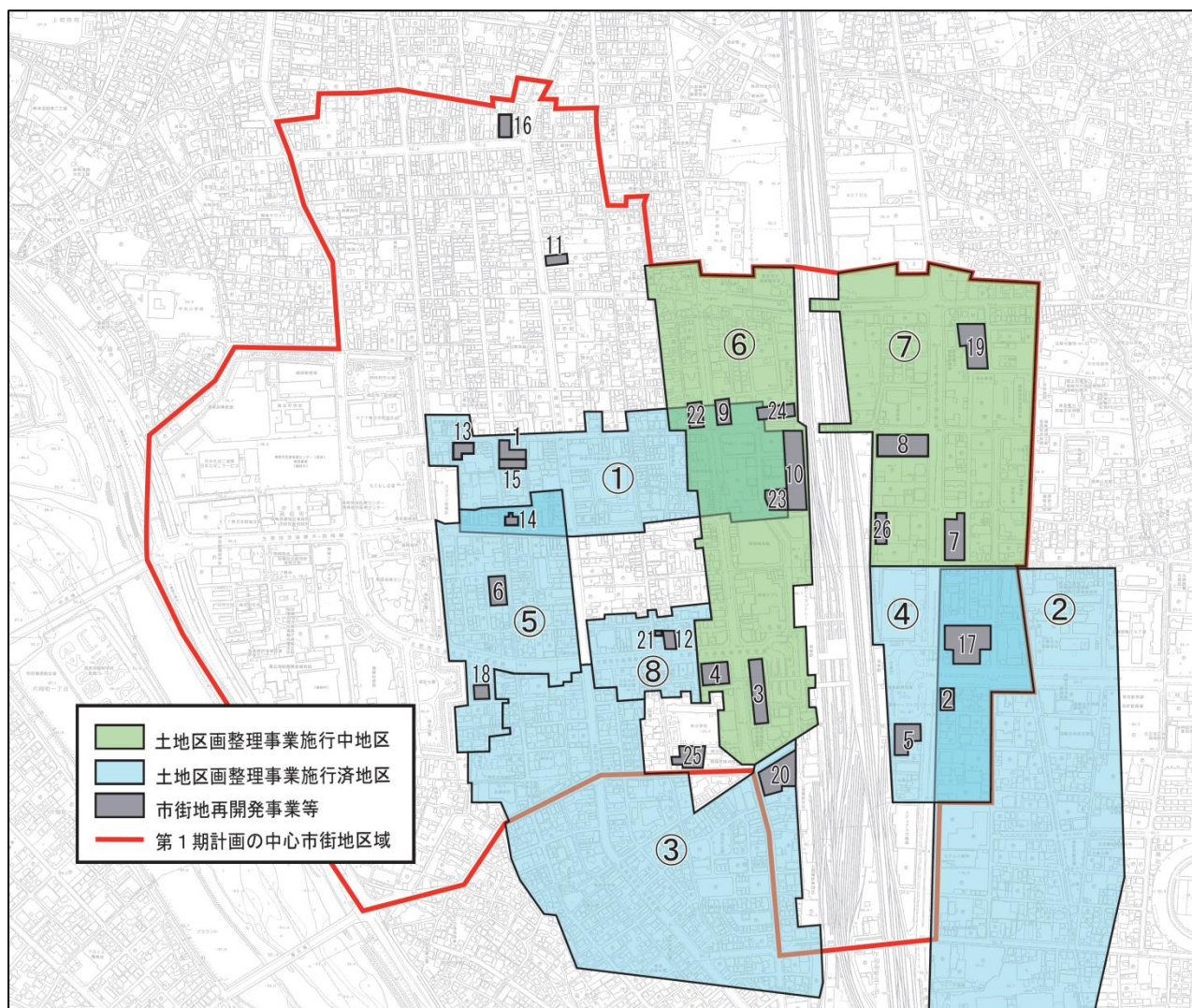
■市街地再開発事業・優良建築物等整備事業

	地図 番号	地区名	場所	施工年度	面積 (ha)	用途
市街地再開発事業	1	中部名店街 B1	鞆町	昭 53～昭 55	0.14	店舗・住宅
	2	高崎駅東口第一	栄町	昭 56～昭 59	0.25	事務所・店舗
	3	高崎駅西口第一	八島町	昭 60～平成	0.90	事務所・店舗・ホテル／駐車場
	4	高崎駅西口第二	八島町	昭 62～平 2	0.55	店舗・事務所・ホテル／住宅・事務所
	5	高崎駅東口第二	栄町	昭 62～平成	0.35	事務所
	6	城址	檜物町	平成～平 5	0.24	住宅・店舗
	7	高崎駅東口第三	東町	平 3～平 6	0.52	住宅・店舗／事務所・駐車場
	8	高崎駅東口第四	東町	平 6～平 9	0.56	事務所・店舗／駐車場
	9	高崎駅西口旭町西	旭町	平 7～平 9	0.23	住宅・店舗
	10	高崎駅西口北第一	旭町	平 11～平 13	0.66	駐車場
優良建築物等整備事業	11	田町	田町	昭 59	0.09	店舗・住宅
	12	高崎駅西口第五	八島町	昭 62～昭 63	0.20	事務所
	13	都心部 A-2	鞆町	昭 61～昭 63	0.15	店舗・事務所
	14	都市部 B-3	連雀町	昭 63	0.08	店舗・事務所・住宅
	15	都心部 B-2	鞆町	昭 63～平 2	0.10	店舗・住宅
	16	本町第三	本町	平 4～平 5	0.13	店舗・住宅
	17	高崎駅東口第五	栄町	平 6～平 9	0.66	店舗・美術館・住宅・駐車場
	18	宮元町(お濠端)	宮元町	平 10～平 12	0.17	店舗・住宅・駐車場
	19	高崎駅東口第六	東町	平 11～平 12	0.41	住宅・事務所・駐車場
	20	鶴見町	鶴見町	平 12～平 13	0.49	店舗・駐車場・事務所
	21	八島町	八島町	平 13～平 14	0.06	住宅・店舗
	22	真町	真町	平 13～平 15	0.20	住宅・店舗
	23	高崎駅西口北第二	旭町	平 14～平 15	0.18	店舗・事務所
	24	旭町	旭町	平 16～平 17	0.30	住宅・医療事務所・駐車場
	25	八島町南	八島町	平 17～平 18	0.23	住宅・学童保育施設・駐車場
	26	高崎駅東口第八	東町	平 19～平 23	0.29	店舗・ホテル

■土地区画整理事業(施工済・施工中)

地図 番号	地区名	目的	換地処分年月	面積 (ha)
①	戦災復興	復興	昭 30.4	10.85
②	東口	宅地開発	昭 35.3	35.04
③	南部第一北	都市改造	昭 58.7	25.30
④	高崎駅周辺	都市改造	平 2.11	10.42
⑤	城址周辺	都市改造	平 25.8	8.20
⑥	高崎駅周辺(西口)	都市改造	平 28.3(予)	17.81
⑦	東口第二	都市改造	平 29.3(予)	17.12
⑧	西口線周辺	都市改造	平 25.2	2.62

■市街地再開発事業・土地区画整理事業位置図



⑥ 交通に関する現状分析

【道路交通】

本市には、市域の東部を縦断する関越自動車道が走っており、高崎 IC と北関東自動車道に分岐する高崎 JCT があります。この高崎 JCT と藤岡 IC の間には、高崎玉村スマート IC が供用を開始し、さらなる利便性の向上が図られます。市域南部には、長野方面に繋がる上信越自動車道も走っていて、吉井 IC が本市南の玄関口として機能しています。さらに、国道は、17 号、18 号、354 号、406 号、254 号の 5 路線が集中しており、埼玉、新潟、長野、栃木方面との交流や物流の促進に寄与しています。

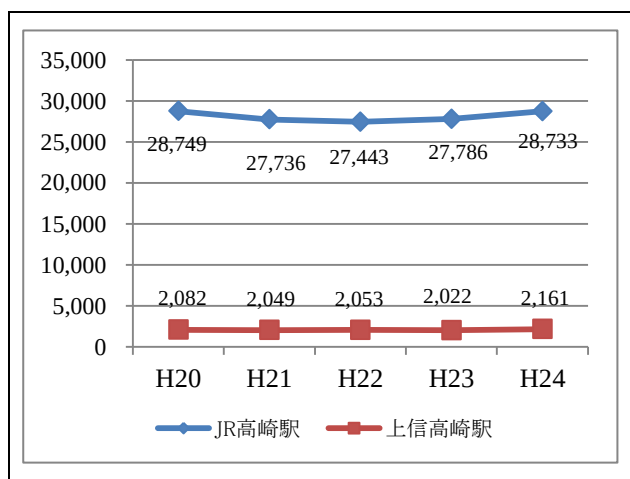
また、都心を囲む 3 環状（環状線・都心環状線・外環状線）に、そこから伸びる 12 の放射幹線（＝3 環状 12 放射）を地域間を結ぶ交流軸として位置付けています。

【公共交通】

本市は、首都圏と上信越を結ぶ交通の要衝として、上越、北陸新幹線の 2 路線が通っているほか、JR 高崎線、上越線、両毛線、信越本線、八高線が走っています。また、県西部の人々の貴重な移動手段として上信電鉄が乗り入れているなど、全国でも有数の交通拠点性を有しています。

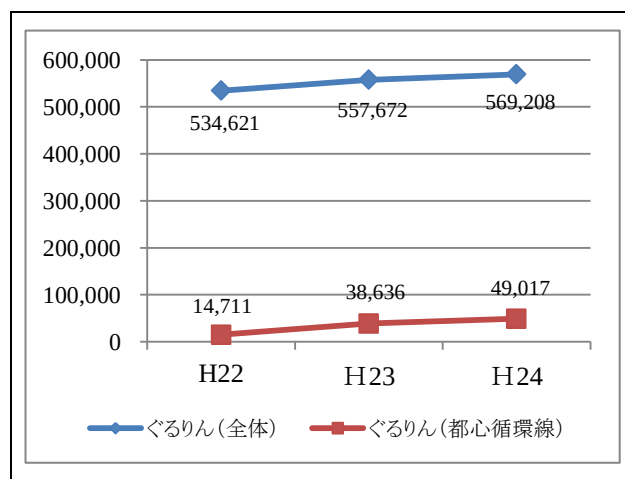
JR 高崎駅の 1 日平均乗客数は、県内各駅の中で最も多く、平成 24 年で 28,733 人となっており、ここ数年は横ばいで推移しています。一方、上信高崎駅の 1 日平均乗客数は 2,161 人で、こちらも横ばい状況となっています。

バス交通では、民間の 4 事業者による複数の営業路線があるものの、1 日平均の乗客人員は減少傾向にあります。市内循環バス「ぐるりん」は、年間利用者が概ね横ばいでしたが、平成 22 年度から運行を始めた都心循環線の年間利用者が増加したことで全体の利用者数を伸ばしています。



■JR 高崎駅・上信高崎駅乗客人員(人/日)

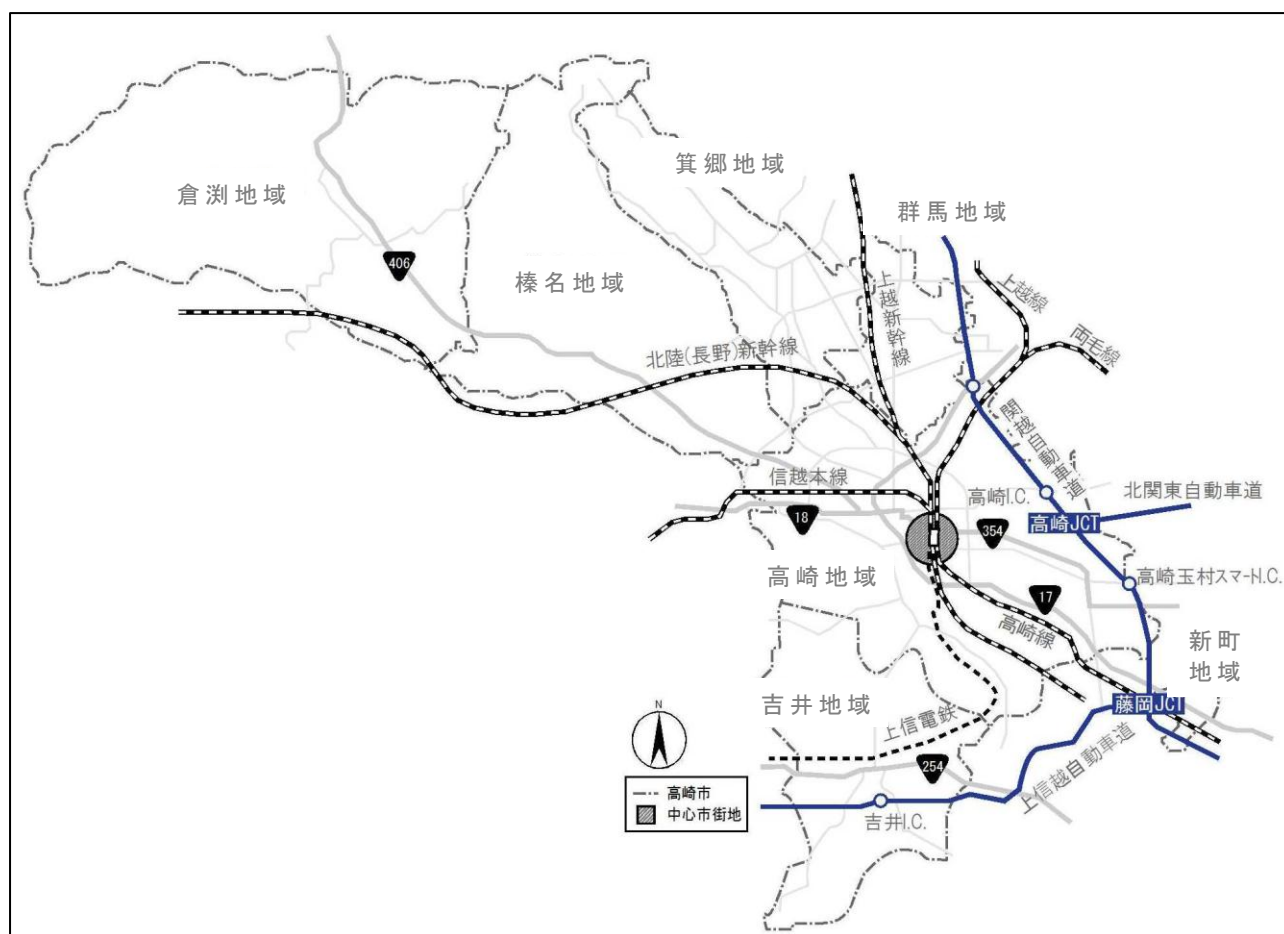
資料:JR 東日本高崎支社・上信電鉄(株)



■ぐるりん乗客人員(人/年)

資料:高崎市地域交通課

■交通体系図



【駐車場】

中心市街地には、市街地再開発事業などにより整備された駐車場をはじめ、民間の時間貸し駐車場が多く立地し、中心市街地のアクセスの向上と利便性を高めています。駐車場法第12条に定める駐車場と城址地下及び城址第2地下駐車場を合わせると、駐車台数は11,690台になります。

■中心市街地の駐車場

№	駐車場名	所在地	境域面積 (㎡)	駐車台数	形態
1	小林駐車場	下横町	1,320	104	立体自走
2	高崎スズランパーキング	宮元町	495	93	機械
3	タイムズ高崎グリーンパーク	寄合町	2,800	46	平面
4	銀座パーク	中紺屋町	1,221	60	平面
5	丸屋高崎駅西口パーキング	旭町	2,214	247	立体自走
6	パーク500	鞆町	2,532	479	立体自走

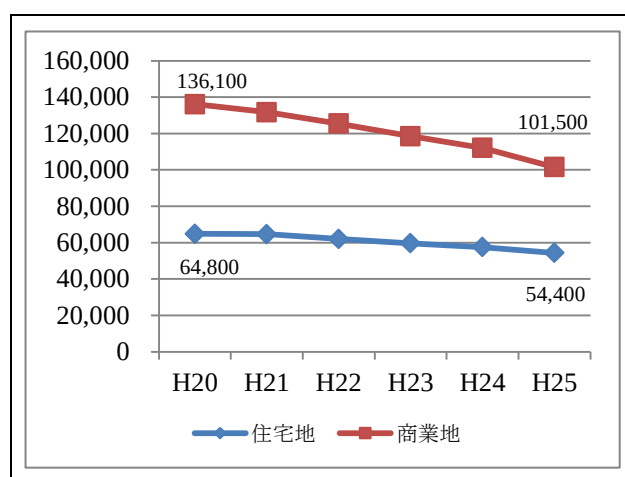
7	パーク 70	柳川町	269	70	機械
8	駅前駐車場	八島町	1,404	351	立体自走
9	高松地下駐車場	高松町	5,230	150	地下自走
10	プリンス駐車場	旭町	9,875	689	立体自走
11	高島屋地下駐車場	旭町	7,220	142	地下自走
12	パーク 75	宮元町	357	72	機械
13	高崎ブルーパーク	八島町	219	70	機械
14	NTT 群馬 パーキング	高松町	8,393	96	立体自走
15	廣田パーク	東町	1,357	326	立体自走
16	イーストパーク	東町	1,600	397	立体自走
17	パーク 108	柳川町	1,637	108	機械
18	JR 高崎駅ビル駐車場	八島町	1,906	93	立体自走
19	パーク 525	東町	2,160	502	立体自走
20	ウエストパーク 1000	旭町	5,942	1,000	立体自走
21	メディアメガ高崎ビル駐車場	下和田町	13,036	430	立体自走
22	西口サウスパーク	鶴見町	3,465	440	立体自走
23	フジサキ大栄駐車場	九蔵町	3,959	159	平面
24	高崎総合医療センター立体駐車場	高松町	23,843	341	立体自走
25	ココパルク 800	東町	3,056	801	立体自走
26	あらまちパーク	あら町	1,318	168	立体自走
27	日新電機高崎旭町 HS 駐車場	旭町	7,254	183	立体自走
28	F・開発高崎旭町駐車場	旭町	1,218	48	平面
29	高崎駅東口自動車駐車場	八島町	6,100	488	立体自走
30	高崎シティパーク	連雀町	2,605	520	立体自走
31	日新電機高崎八島町駐車場	八島町	3,352	127	平面
32	高崎駅西口ペガサス駐車場	旭町	3,650	146	平面
33	LABI1 高崎駐車場	栄町	11,466	978	立体自走
34	NPC24H 高崎田町パーキング	田町	1,343	56	平面
35	タイムズドラッグス高崎栄町店	栄町	1,641	41	平面
36	城址地下駐車場	高松町	—	192	地下自走
37	城址第二地下駐車場	高松町	—	391	地下自走
38	保健センター・中央図書館駐車場	高松町	1,999	400	立体自走
39	平和パーク旭町	旭町	2,341	686	立体自走
合計			149,797	11,690	

⑦ 地価に関する状況分析

地価は、バブル経済以降、長期にわたる景気の低迷を受けて、全国各地で下落傾向にありました。近年では、景気回復の兆しから大都市圏において下げ止まり傾向が見られるようになりましたが、地方都市は依然として一部を除き下落傾向が続いています。本市の商業地を地価公示価格で見ると、平成 25 年平均が 101,500

円/㎡となっており、平成 20 年比で 25.4%下落しています。住宅地も平成

25 年平均で 54,400 円/㎡となっており、平成 20 年比で 16.0%の下落を示しています。しかし、八島町の商業地は県下一の価格が長年続くなど、ポテンシャルは常に高い状況にあります。



■住宅地と商業地の平均地価 (円/㎡)

■主な中心市街地(商業地)の地価公示価格(円/㎡)の推移

地点名	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
八島町 63 番 1 外	436,000	424,000	409,000	387,000	370,000	355,000
栄町 11 番 13 外	289,000	283,000	270,000	257,000	245,000	240,000
連雀町 85 番 1 外	270,000	259,000	237,000	222,000	207,000	195,000
通町 52 番 1	240,000	231,000	219,000	206,000	194,000	184,000

⑧文化活動に関する現状分析

中心市街地では、一年を通じてまつりや様々な音楽・芸術イベントが開催されており、多くの人がその賑わいを楽しんでいます。

特に、本市の特長でもある音楽のイベントは、群馬交響楽団の定期演奏会をはじめ、高崎音楽祭や高崎マーチングフェスティバルなど、数多く開催されています。また、美術館とタワー美術館では様々な企画展を鑑賞することができ、高崎シティギャラリーでは気軽に作品を発表できる場があるなど、日常的に芸術と触れ合える環境が整っています。

■中心市街地で開催される主なイベント

名称	開催時期	概要	
たかさきスプリングフェスティバル	春季	毎年4月29日に開催されます。高崎に残る市民芸能を観覧できる「市民芸能祭」や毎年、大勢の人から好評を得ている「フリーマーケット」など、子どもからお年寄りまで楽しめる催しがたくさんあります。	
高崎映画祭	春季	「地方では上映されにくい映画を高崎で見たい。」そんな思いを持つ市民が集まり大きく育った「高崎映画祭」。期間中は80本以上の映画が上映され多くの人が足を運びます。授賞式には著名な監督や俳優も参加し、華を添えます。	
高崎まつり	夏季	毎年8月の第1土・日曜日に開かれます。中心市街地で、勇壮な神輿ののみ合いや、山車巡行などの伝統的なイベントに加え、福引など誰でも見て、参加して、楽しめる祭りです。土曜日の夜には、北関東最大級の花火大会が開かれ、約15,000発の花火が夜空を彩ります。	
高崎音楽祭	秋季	群馬交響楽団を育てたまち高崎は、新しい音楽文化も発信しています。1990年から始まった高崎音楽祭は、クラシックやジャズなど、期間中は、あらゆる音楽が高崎に集結し、賑わいます。	
高崎マーチングフェスティバル	秋季	高崎マーチングフェスティバルは、「音楽のある街・高崎」を代表する市民参加型イベントです。市内のスクールバンドが中心ですが、国内外から有力バンドを招聘し、沿道に詰めかけた大勢の観客を沸かせます。	
たかさき能	秋季	昭和11年に建立した白衣大観音の築造50周年を記念して始まった「たかさき能」は、毎年10月上旬に開催されます。かがり火に映し出される舞台上で演じられる能は、日本古来から伝わる幽玄な世界を楽しむことができます。	

高崎えびす講市	冬季	商都高崎の冬の風物詩です。市内の小売業者が、商売の神であるえびす様に一年の商売繁盛を祈願するとともに、報恩感謝の意を込めた大売出しを行う本市を代表する一大商業イベントです。	
たかさき光のページェント	冬季	冬の高崎を飾る、イルミネーションイベントです。 点灯式やオープニングイベント、スターライトウイーク、ライトアニマルなど、各種イベントが開催されます。	
群馬交響楽団定期演奏会	年 9 回	群馬音楽センターで、年 9 回の定期演奏会を開催しています。このほか、元旦コンサートや夏休みのサマーコンサートも開催し、多くのファンに親しまれています。	
ようこそ高崎人情市	毎月 1 回	高崎名物の人情市は、毎月第四日曜日にもてなし広場で開催される朝市とフリーマーケット、そして飲食の屋台が並ぶ賑やかな「市」です。	
高崎市民美術展覧会	年 1 回	市民の美術に対する制作意欲と鑑賞力を高め、市民文化の向上を図ることを目的に開催されています。写真や書道、彫刻や工芸、日本画、洋画など、様々なジャンルの作品を鑑賞することができます。	
高崎市農業まつり	年 1 回	自然の恵みに感謝し、「食」の大切さを考えるとともに、高崎産の農産物を市民に紹介する場として開催されています。市内で栽培された野菜の展示・即売会のほか、様々なイベントが行われ、大勢の人で賑わいます。	
音人まつり	年 3 回	高崎駅西口の商業エリアの振興、音楽関係団体やアーティストの活動の場の提供・育成を目的に、まちなかを音楽で盛り上げています。	
高崎バル	年 2 回	「高崎の飲食業界の振興、高崎の新しい食文化の創造、食で高崎のまちを元気にする」をコンセプトに開催しています。参加者は、チケットを購入し、ガイドマップをもとに参加各店での飲み歩きや食べ歩きを楽しみます。	
高崎商都博覧会	年 2 回	商都高崎の魅力を発信するために、中心市街地に立地する「スズラン」、「高島屋」、「ビブレ」、「モントレー」、「ヤマダ電機 (LABI1 高崎)」の 5 つの大型店と地元の商店街が連携し、独自のセールやイベントを開催するほか、大抽選会も行っています。	
キングオブパスタ	年 1 回	主としてパスタを提供している飲食店に出店してもらい、参加者による投票でその年の No.1 パスタを決定します。イベントを通じて、「パスタの街・高崎」を全国へ発信します。	

－ 中心市街地の現況のまとめ－

【沿革・位置付け】

- 中心市街地は、古くから商都・高崎の中心、内陸交通の拠点として繁栄し、今日でも県内随一の商業集積と全国有数の広域交通ターミナル機能を有している。

【人口動向】

- 群馬県の人口が減少する中で中心市街地の人口は、土地区画整理事業や市街地再開発事業などの都市基盤整備が進捗したことによるマンション建設の活発化を受け、増加傾向を維持している。
- 高齢化率も若年ファミリー層のマンション志向の強まりを受け、歯止めがかかりつつある。

【商業動向】

- 空き店舗は改善の兆しがあるが、周辺市町で大型小売店舗の集積が進むなど、中心市街地の商業に及ぼす影響が懸念されている。
- 店舗数と従業者数は、長引いた景気の低迷や後継者不足などにより、減少傾向となっている。

【都市福祉施設の立地状況】

- 中心市街地には、市役所、国立病院機構高崎総合医療センター、高崎郵便局など市民生活に密着した公共施設や、群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、美術館などの文化施設が多数立地しており、高い市民サービスを提供するとともに、文化や音楽のまちとしても知られている。
- 群馬音楽センターや中央体育館の老朽化を背景に、新しい高崎文化芸術センターや新体育館の整備が進行中で、市民サービスの向上に寄与する新しい拠点の形成が期待されている。

【市街地整備の動向】

- 中心市街地は上越新幹線の整備をきっかけとし、土地の合理的かつ健全な高度利用を図るため、土地区画整理事業や市街地再開発事業を多数実施してきた。結果として細街路や密集市街地の解消が図られ、高崎市の顔にふさわしいまちづくりが進められている。

【公共交通の利用状況】

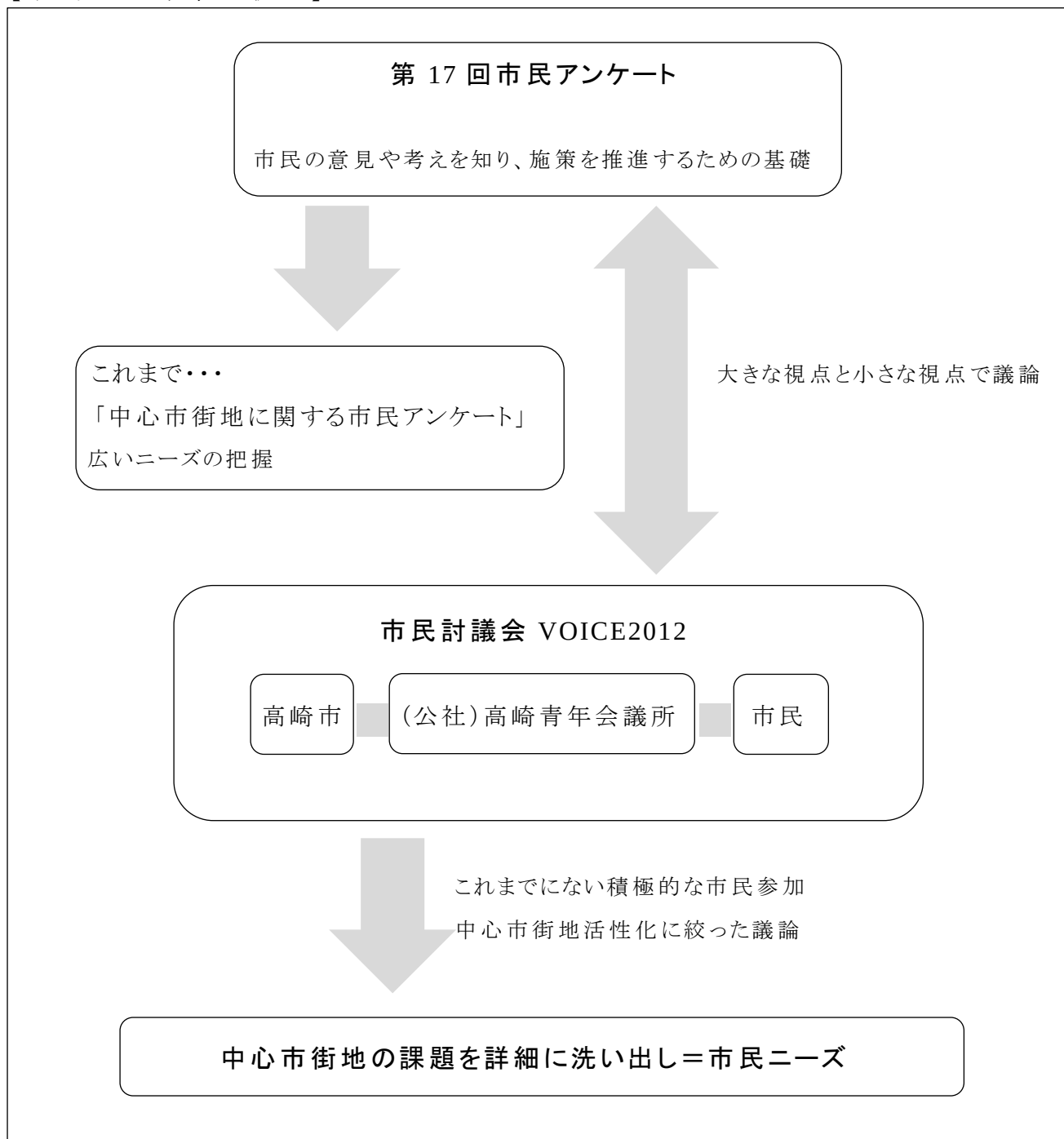
- 高崎駅は、上越、北陸新幹線、JR 高崎線、上越線、両毛線、信越本線、八高線、そして、上信電鉄が乗り入れており、全国でも有数の広域交通ターミナルを有している。
- JR 高崎駅の乗客数は、1 日約 28,000 人、上信高崎駅の乗客数は約 2,000 人で横ばい状況となっている。
- バス交通は、民間事業者による複数の営業路線があるものの、1 日の平均乗客数は減少傾向にある。市内循環バス「ぐるりん」は、都心循環線の利用者が増加したことで全体の利用者数も増加傾向となっている。

【文化活動の状況】

- 中心市街地では、一年を通じてまつりや様々な音楽・芸術イベントが開催されており、多くの人がある賑わいを楽しんでいる。群馬交響楽団の定期演奏会や美術館、タワー美術館での企画展、高崎シティギャラリーでは気軽に作品を発表できるなど、日常的に芸術と触れ合える環境がある。

(6) 市民ニーズの把握

【市民ニーズ把握の流れ】



①第 17 回市民の声アンケート(抽出)

本調査は、市民が毎日の生活や仕事に安心感を持てる市政を目指し、重要な施策を積極的に進めていくために、市民の意見や考えを広くうかがうことを目的として実施しました。

第 2 期基本計画の策定にあたっては、本アンケートを活用することとし、関連のある調査項目を抽出してニーズを把握することとします。

地 域 高崎市全域

対 象 平成 24 年 9 月 1 日現在、住民登録されている満 20 歳以上の市民

対象者数 6,000 人

実 施 日 平成 24 年 10 月 1 日(月)発送、2 日(火)から 15 日(月)回収

回 収 率 45.9%

【調査結果と分析 第 5 次総合計画のまちづくり】

「将来のまちの姿」の実現に向けた取り組みが行われていたと感じるか

分野	調査年	そう思う (どちらかというを含む)	分析
すこやかで元気に暮らせるまち(健康・福祉)	平成 24 年	45.7%	「健康・福祉」「都市・建設」は「そう思う」の割合が比較的高い＝満足度が高い
	平成 22 年	42.4%	
	平成 20 年	37.1%	
豊かな心と感性が育つまち(教育・文化)	平成 24 年	38.3%	「産業・観光」「地域・自治」は「そう思う」の割合が比較的低い＝満足度が低い
	平成 22 年	37.5%	
	平成 20 年	38.3%	
安心でやすらぎのあるまち(環境・安全)	平成 24 年	39.2%	「将来のまちの姿」の実現に向けた取り組みの感じ方に、大きな経年変化は見られない
	平成 22 年	36.0%	
	平成 20 年	34.8%	
人々がつどう魅力あるまち(産業・環境)	平成 24 年	25.8%	
	平成 22 年	22.5%	
	平成 20 年	23.7%	
便利で快適な住みよいまち(都市・建設)	平成 24 年	45.0%	
	平成 22 年	44.9%	
	平成 20 年	46.9%	
市民とつくるみんなのまち(地域・自治)	平成 24 年	27.1%	
	平成 22 年	24.9%	
	平成 20 年	23.1%	

※ 40%以上を満足度が高い、30%以下を満足度が低いとした場合

【各施策の満足度・重要度 産業・環境分野】

満足度について

項目	調査年	そう思う (どちらかというを含む)	分析
高崎駅周辺の中心商店街ににぎわいがある	平成 24 年	44.2%	高崎駅周辺の中心商店街ににぎわいがあるの割合が高い＝満足度が高い
	平成 22 年	41.6%	
	平成 20 年	45.5%	

※40%以上を満足度が高い、30%以下を満足度が低いとした場合

【各施策の満足度・重要度 建設・都市分野】

満足度について

項目	調査年	そう思う (どちらかというを含む)	分析
幹線道路や生活道路が整っている	平成 24 年	60.5	幹線道路や生活道路が整っている、生活道路や公園、下水道などが整備され、快適で利便性の高い市街地が形成されている
	平成 22 年	65.3	
	平成 20 年	65.1	
生活道路や公園、下水道などが整備され、快適で利便性の高い市街地が形成されている	平成 24 年	48.4	比較的高い＝満足度が高い
	平成 22 年	53.9	
	平成 20 年	53.9	
バスや鉄道などの公共交通が充実している	平成 24 年	34.3	歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる、出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているの割合が比較的低い＝満足度が低い
	平成 22 年	39.0	
	平成 20 年	45.3	
景観に配慮した美しい街並みが形成されている	平成 24 年	30.2	歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる、出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているの割合が比較的低い＝満足度が低い
	平成 22 年	37.0	
	平成 20 年	36.4	
歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる	平成 24 年	22.0	歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる、出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているの割合が比較的低い＝満足度が低い
	平成 22 年	30.5	
	平成 20 年	30.1	
出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されている	平成 24 年	21.9	歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいる、出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているの割合が比較的低い＝満足度が低い
	平成 22 年	24.4	
	平成 20 年	25.2	

※40%以上を満足度が高い、30%以下を満足度が低いとした場合

②たかさき市民討議会 VOICE2012

【市民討議会とは】

本市では、市民の声を市政に反映させるため、「高崎市市民参加推進計画」を策定し、様々な手法による市民参加の取り組みを実施しております。中でも「市民討議会」は、これまでの市民参加の手法（日頃から積極的に市政に参加している人を対象）とは異なり、無作為抽出により声を上げない多数の市民の意見（サイレントマジョリティ）を取り込んだ新たな市民参加の手法であり、これまでの市民参加の手法では汲み取ることはできなかった「声なき声」を聴くため、本市でも積極的に取り組んでいる手法です。

【たかさき市民討議会募集方法】

討議会では、高崎在住の18歳以上の市民1,300人に無作為抽出により案内を送付しました。テーマは、「中心市街地活性化を考える～まちなかづくりはみんなが主役～」とし、中心市街地活性化に関して行政の施策や商店街の活動ばかりに頼ることなく、そこで暮らす市民全員が課題を共有し対策を考え行動する、市民総参加型で「中心市街地活性化」に取り組むこととしています。

【実施概要】

たかさき市民討議会 VOICE2012 の開催にあたっては、市民参加と協働のまちづくりをさらに進めるため、公益社団法人高崎青年会議所と高崎市でパートナーシップ協定を締結し、協働で取り組みました。

テーマに関しては、平成20年に認定された「高崎市中心市街地活性化基本計画」から第2期基本計画の策定に向けて、市民が中心市街地に求める具体的な構想や施策について広く意見を集めるために「中心市街地活性化」に絞り、討議を行いました。

開催日	平成24年9月8日（土）、9日（日）
開催場所	高崎市役所 20階 研修室
主催	たかさき市民討議会 VOICE2012 実行委員会
テーマ	中心市街地を考える ～まちなかづくりはみんなが主役～
参加者	延べ62名

【討議1 高崎のまちなかに足りないところ、魅力的なところ】

参加者個人がまちなかに足りないと感じているところ及び魅力的に感じているところをまとめ、まちなかに関するイメージを明確にしました。

■高崎のまちなかのいま

分類	魅力度	意見のまとめ
自然環境	魅力的	自然に近い
		市役所周辺の環境が魅力的
		国道沿いの景観が良い
		公園が多い
		周辺のロケーションが良い
		自然
	足りない	公園・緑・せせらぎが少ない 緑・心地よい空間が不足している
買い物・飲食	魅力的	物価が安い
		駅周辺は整備されていて買い物は便利
	足りない	お店（専門店・ケーキ・喫茶 etc）が少ない
		飲食（おしゃれな店など）がない
		個性的な行きたい店が不足している 「コンビニ」的な店が少ない
公共・福祉施設	魅力的	教会やお寺が多い
		公共施設、教育（子育て）が整備されて良い
		公共施設が揃っている
	足りない	福祉施設がない
		遊歩道（お濠、烏川 etc）の整備が必要 子どもと老人に優しい歩道・グリーンベルトを設置・整備を
交通インフラ	魅力的	交通の要衝
		電車の便が良い
		交通の利便性が良い
		駅周辺は整備されていて歩行は安全
	足りない	交通インフラ不足
		中心街に車で行きづらい
		駐車場・駐輪場が不足している
		市街地に入る「案内板」がない
		「無料駐車場」がない 駐車場を中心に買い物・食事ができれば良い
文化・歴史	魅力的	文化・芸術のまち（群響・美術館・映画 etc）
		歴史遺産
		文化面の充実
		歴史がある

		花火・イルミネーション・文化芸術がよい
その他	魅力的	駅周辺に人が集まる
		災害が少ない
		街がコンパクト
		駅を中心としたいろいろな施設
	足りない	楽しめる場所がない
		人が集まらない
		情報がない
		学生が集まれる施設がない
		まちなかに特色がない
		観光地のアピールが不足しているのもっとアピールを
		まちの魅力

【討議 2 目でみて歩いて感じるまちなか】

実際にまちへ出て歩くことにより、まちなかの現状を把握するとともに、討議 1 で共有したプラス、マイナスなイメージを具体的なものとしました。

■まちなか歩きの様子



【討議 3 ズバリ！活性化のアイデアはこれだ！】

中心市街地でしか味わえない、体験できない新たな魅力「新しいスポット・イベント」の案を全員で考えました。個人のアイデアをグループ討議を通じてブラッシュアップし、最終的に全員の合意形成を図り、優先順位を確定しました。

■新しいスポット・イベントのアイデア

第 1 位	烏川及び周辺環境の利用（屋形船・ボート・屋台など）
第 2 位	毎週土日の朝マルシェ（新鮮野菜の販売）
第 3 位	小学校空き教室の活用（介護と保育併用）

【討議 4 ズバリ！回遊性向上のアイデアはこれだ！】

中心市街地へ行く理由があつたとしても、要件を済ますだけでは結果的にまちの賑わいには繋がりません。用事があつて訪れた人がそのついでに数箇所へ寄っていく動線や仕組みづくりによって回遊性を向上させる案を全員で考えました。個人のアイデアをグループ討議を通じてブラッシュアップし、最終的に全員の合意形成を図り、優先順位を確定しました。

■回遊性向上のアイデア

第 1 位	無料駐車場もしくは格安駐車場の設置
第 2 位	まちなかキャンパス
第 3 位	気持ちよく歩ける環境整備（子ども・ペットと一緒に歩いて屋根付きベンチあり）

【討議 5 ズバリ！周辺地域とのアイデアはこれだ！】

高崎市の中心市街地は、高崎市の玄関口であることは明確で、文化発信地でもあります。市町村合併によって新しい高崎市が誕生した中、中心市街地の役割はどのように変化していくべきか、合併した地域から見た中心市街地、その連携アイデアについて考えました。個人のアイデアをグループ討議を通じてブラッシュアップし、最終的に全員の合意形成を図り、優先順位を確定しました。

■周辺地域の連携

第 1 位	近隣特産物の販路拡大（高崎パック）
第 2 位	高崎全体でスポーツ・文化的イベントの開催
第 2 位	観音山丘陵を中心とし連携した観光開発
第 2 位	榛名神社ほか周辺神社と市内神社の周遊券発行

【討議 6 ズバリ！私たち市民にできることはこれだ！】

個人のアイデアをグループ討議を通じてブラッシュアップし、最終的に全員の合意形成を図り、優先順位を確定しました。

■市民にできる活性化

第 1 位	高崎市内で買って食べて遊ぶ
第 2 位	市役所・青年会議所等に目安箱を設置しアイデアを伝える
第 2 位	地域を愛し情報発信する

③市民ニーズのまとめ

【中心市街地に対する満足感】

「自然環境」に関しては、魅力的な資源をもっと活用できたら良いという意見、「買い物・飲食」に関しては、かつてはもっと栄えていて買い物が便利だったという意見がありました。

また、「公共・福祉施設」に関しては、公共サービスへの評価が高く、福祉施設に関しては足りないと感じていること、「交通インフラ」に関しては、交通網への評価が高いが駐車場に関する要望が多いことが分かりました。

「文化・歴史」に関しては、多くの人が魅力的であると感じています。

【中心市街地活性化のための新たなスポットとイベント】

「烏川及び周辺環境の利用」は、烏川沿いの自然環境をもっと有効活用したいとの思いの結果と考えられます。

また、「毎週土日の朝マルシェ」は、休日朝からまちへ出かける楽しさ、理由をつくりだすことでまち全体の賑わいと活性化に繋げることが高く評価されています。

「小学校の空き教室の利用」は、介護と保育の両面で小学校を活用するもので、高齢者と若者、また子どもたちが直接交流する場所をつくり、コミュニケーション豊かなまちをつくる必要性が指摘されています。

【回遊性を向上するための方策】

中心市街地に訪れる人々にとって気がかりとなることが駐車場であり、「サービス時間や駐車料金を意識すると回遊する時間がとれない」という意見が多く出されました。一方で、「駐車場が無料でも抜本的な解決策にはならない」という意見もあり、駐車場問題の難しさが指摘されています。

「まちなかキャンパス」では、市内の大学の一部の授業に市街地の空きテナントを使用する、提携の飲食店を学食扱いとしてサービス提供を行うなど、既存環境を活用し、まちなかで学生に回遊してもらうとしたことが評価されました。

「気持ちよく歩ける環境整備」では、子どもやペット連れも安心で、また必要に応じて預けることができる環境が求められています。

【周辺地域との連携】

「近隣特産物」や「観光開発」、「市内神社の周遊」は、中心市街地と周辺地域、双方の行き来を増やすとともに、全体の底上げが必要であるとの意見がありました。

【中心市街地活性化と市民参加】

討議や実際にまち歩きを行う中で、中心市街地の危機感を新たに認識したとともに、自分たちの育ったまちを自分たちの手で守らなければならないことから「高崎市内で買って食べて遊ぶ」必要性が指摘されています。

【市民ニーズのまとめ】

市民に対するアンケートや討議会の結果によると、高崎駅周辺の中心市街地の商店街に賑わいを感じている人が多い反面、出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているとする意見が少数で、魅力ある商店・商店街づくりに継続して取り組む必要があります。

また、文化・歴史に関しては、多くの人が魅力を感じており、これらの資源と回遊性を組み合わせた施策の充実が望まれています。

今後、第2期基本計画で中心市街地の活性化を図っていくためには、満足度の高かった交通網を最大限生かし、来訪者の集客を向上させるとともに、高崎駅東西が一体となった活力ある中心市街地の形成を目指していく必要があります。

■第 1 期基本計画と第 2 期基本計画のニーズ比較

	平成 19 年度（中心市街地に関する市民アンケート）		平成 24 年度（第 17 回市民アンケート）	
	調査地域	高崎市全域	調査地域	高崎市全域
	調査対象	18 歳以上の市民 5,000 人	実施対象	20 歳以上の市民 6,000 人
	調査方法	郵送による配布・回収	調査方法	郵送による配布・回収
	調査時期	平成 19 年 9 月 13 日から 26 日	調査時期	平成 24 年 10 月 2 日から 15 日
	回 収 率	36.0%	回 収 率	45.9%
中心市街地の印象（自然環境を含む）	【魅力的であると魅力的でない割合が同程度】 規模が大きくて楽しめるデパートがある 自分の欲しい商品が選択できる 交通の便がよい 駐車場が整備されている 【魅力的でない】 商店（街）のサービスが良いとは思わない 商店や商店街のイベントが楽しいとは思わない 街に人が集まり、賑やかな雰囲気がない 流行やファッションの先端性を感じない 文化的雰囲気に満ちているとは思わない		【満足度が高い】 高崎駅周辺の中心商店街ににぎわいがある 幹線道路や生活道路が整っている 【満足度が低い】 歩行者と自転車にやさしいまちづくりが進んでいるとは思わない 出かけてみたくなる魅力ある中心市街地が形成されているとは思わない	

※第 2 期基本計画の策定における市民ニーズの把握については、これまでの中心市街地に関する市民アンケートから、大きな視点で中心市街地の現状を捉えた「第 17 回市民アンケート」と、まちづくりの主役である市民が現状と課題について積極的に議論を行った「市民討議会」を組み合わせ、潜在的な市民ニーズを掘り起こしました。

今後も市民ニーズについては、大きな視点と小さな視点の両側から積極的な把握を行い、活力ある中心市街地の形成に役立てることとします。

平成 24 年度（市民討議会）	
調査地域	高崎市全域
実施対象	18 歳以上の市民 1,300 人
参加方法	郵送により案内送付・参加希望の回答
実 施 日	平成 24 年 9 月 8 日・9 日
参 加 率	4.8%（延べ人数による）
【魅力的である】 市役所周辺の環境が魅力的 公園が多い 駅周辺は整備されていて歩行は安全 公共施設が揃っている 交通の利便性が良い 文化・芸術のまち 【魅力的でない】 緑・心地よい空間が不足している 個性的な行きたい店が不足している 遊歩道（お濠、烏川）の整備が必要 駐車場・駐輪場が不足している	

[3] 中心市街地の特性分析

① 広域交流拠点としての歴史的背景

本市の中心市街地は、「商人のまち」、「街道の宿場町」として栄えた歴史的経緯があります。現在でも、小路や商家、蔵などの建造物が残っており、活性化の資源として活用できる要素を持っています。

② 地域経済をリードする役割と責任

本市の中心市街地は、交通の優位性から、企業の本・支店が多く立地しています。雇用を創出し、まちを活性化することで、地域経済をリードする責任が求められています。

③ 商業活力の再生

本市の中心市街地は、県内随一の商業集積を誇っています。市外や県外からの来客数も多く、まちの顔としての役割を担っています。また、空き店舗も減少していることから、店舗の更新も順調に推移しています。

④ 高速交通網の充実と利活用

本市は、上越、北陸新幹線をはじめ、JR 高崎線などの在来線が 5 本、関越、北関東、上信越の 3 本の高速道路、そして 5 本の国道が集中する全国でも有数の交通拠点です。これらの交通網を生かした中心市街地の活性化が望まれています。

⑤ 公共公益施設の集積

本市の中心市街地には、市役所や病院などの市民生活に密着した公共施設があるほか、群馬音楽センターや美術館など、文化施設も多数立地しています。また、高崎駅市民サービスセンター内には、パスポートセンターもあり、利便性の高い市民サービスを提供しています。

⑥ 市街地整備の進展

本市の中心市街地は、上越新幹線の整備以降、積極的に市街地の整備・改善に取り組んできました。土地の高度利用や基盤整備が進み、災害に強いまちづくりが進展しています。

⑦ 堅調な人口の推移

全国的に少子高齢化が進み、人口減少時代に入りましたが、本市は、都市の魅力と住みやすさなどから、人口は増加傾向にあります。中心市街地においても、

交通の利便性や公共・商業施設の集積が多いことなどから、マンションを中心に定住人口は増加しています。

8 文化的特長と特産品

本市は、群馬交響楽団による定期演奏会や高崎音楽祭、高崎ならではの視点で選考し全国のさきがけとなった高崎映画祭など、数多くのイベントが中心市街地で開催されています。また、全国の約 8 割の生産量を誇る「高崎だるま」や粉文化の産物である「高崎うどん」、「高崎パスタ」は、本市の特産品として高い知名度を有しています。

9 充実したイベント

本市の中心市街地では、高崎まつりや高崎バル、高崎商都博覧会や高崎えびす講市など、一年を通じて多くのイベントが開催されています。イベントには、市内外の多くの人々が参加し、大きな賑わいを創出しています。

10 広域交流人口の増加

本市は、高速交通網を利用した場合、2 時間圏内に日本の約 2 分の 1 の人口が存在すると言われます。この交流人口を生かすため、都市集客施設や新体育館、群馬県コンベンション施設など、本市の魅力向上のための施策が進行しています。



以上のことから、本市の中心市街地の特性は、次のように集約することができます。

特性 1 人口減少時代の中、人口が増加傾向にあるのは地方都市では稀有であり、定住人口の促進や都市集客施設等の整備による交流人口の増加は、中心市街地の賑わいや回遊性向上の重要な要素である。

特性 2 県下最大の商業集積を誇る中心市街地の賑わいは、様々な施策の実行により回復傾向にある。しかし、中心市街地全体での回復までには至っておらず、商都高崎の中心市街地の復活は、活力あるまちづくりに重要な要素である。

特性 3 事業が進んでいる都市集客施設には、音楽のある街・高崎にふさわしい高崎文化芸術センターが整備される。また、新体育館や群馬県コンベンション施設の整備も進行しており、これら施設が中心市街地に与える効果を最大限生かす必要がある。

[4]上位計画における中心市街地活性化の位置付け

【高崎市第5次総合計画基本構想(平成20年度～平成29年度)】

■本市の中心核としての位置付け

本市は、高崎駅周辺の中心市街地において、過去20余年にわたり市街地再開発事業や土地区画整理事業などの都市改造に取り組み、都心部の再生を図ってきました。近年ではその成果が表れ、地方都市における中心市街地の空洞化が全国的に問題となる中で、本市の中心市街地は数多くの大型商業店舗が立地し、新規出店も進むなど、高い商業集積と集客力を誇っています。このことから、本市は、中心市街地を都市の中心核として位置付けています。

【高崎市第5次総合計画後期基本計画(平成25年度～平成29年度)】

■中心市街地に関連する施策の基本方針

商業の振興

県内随一の交通拠点性や商業集積に加え、リーディングプロジェクトや各種イベントの充実により、魅力や集客力を高め、市内各所や都市圏から多様な人々が集まり、多彩な出会いと交流が生まれるにぎわいあふれる「商都高崎」として、多様な都市機能が集積した活力ある中心市街地の形成を目指します。

機能的で潤いある都市空間の創出

国内有数の交通拠点性、豊かな文化性、恵まれた自然環境など、中心市街地や周辺市街地に蓄積された様々な特性や魅力を活かし、本市の持続的な発展を可能にする高崎ならではのまちづくりを進めます。そして、高崎都心部の求心力を高めるため、高崎駅東口に新しい高崎のシンボルとなる都市集客施設の整備を進め、機能的で潤いのある都市空間の創出を図ります。

【高崎市都市計画マスタープラン(平成17年～平成37年)】

■地域別構想と地区別構想(高崎地域都心地区)

中心商業地

都心地区の中心商業地は、商業・業務地として高度化を図るとともに、都心居住を推進し、賑わいと魅力ある中心市街地の形成を目指します。

高崎駅周辺及び中心市街地では、土地区画整理事業、市街地再開発事業などを推進し、土地の有効活用を図ります。

高崎駅東口周辺は、コンベンション、ビジネス、ショッピング、居住などの都市機能の充実を図るため、商業・業務地の高度化を誘導し、快適で魅力ある拠点の形成を目指す土地利用を図ります。

防火・準防火地域の指定などにより、地区の不燃化や耐火建築物の誘導を図ります。

[5]第 1 期基本計画の進捗状況と事業効果の検証

(1)進捗状況

本市は、平成 20 年 11 月、「高崎市中心市街地活性化基本計画」の認定を内閣総理大臣から受け、「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”」の基本理念の下、各種事業に取り組んできました。

第 1 期基本計画に掲載した全 73 事業(平成 26 年 1 月時点)のうち、実施中を含め 9 割が進捗しています。

市街地の整備改善では、飛龍の松周辺整備事業、高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業、市道 A631 号線整備事業を除く 19 事業が完了若しくは実施中となっています。都市福利施設では、高崎アーバンホテル地下改修事業、商業の活性化では、スズラン新館増床事業が未実施となっているものの、居住環境の整備と一体的推進事業は全てが完了若しくは実施中となっています。

第 1 期基本計画で位置付けた 3 つのリーディングプロジェクトのうち、駅東口拠点開発(大型店・デッキ等)と新図書館・医療保健センターの建設が予定どおり進捗したことで、高崎駅を中心とするイーストコアゾーンでは駅東西が一体的となり、駅一円においては新たな人の流れが生まれました。また、新図書館・医療保健センター周辺のウェストコアゾーンにおいても集客拠点が生み出されたことで、中心市街地における 2 つのコアゾーンの強化が図られました。

このことから、評価指標である小売業年間商品販売額が順調に推移する結果となりましたが、歩行者・自転車通行量と文化施設の利用者数の合計値は目標を下回っていることから、2 つのコアゾーンにおいては「交通結節点である利便性」や「質の高い文化施設が集積する特性を生かす」ことで広域からの集客を高めるとともに、コアゾーン間にある中心商業地の魅力づくりをさらに進めることで、人の流れを波及させる必要があります。

■第 1 期基本計画に掲載している事業の実施状況

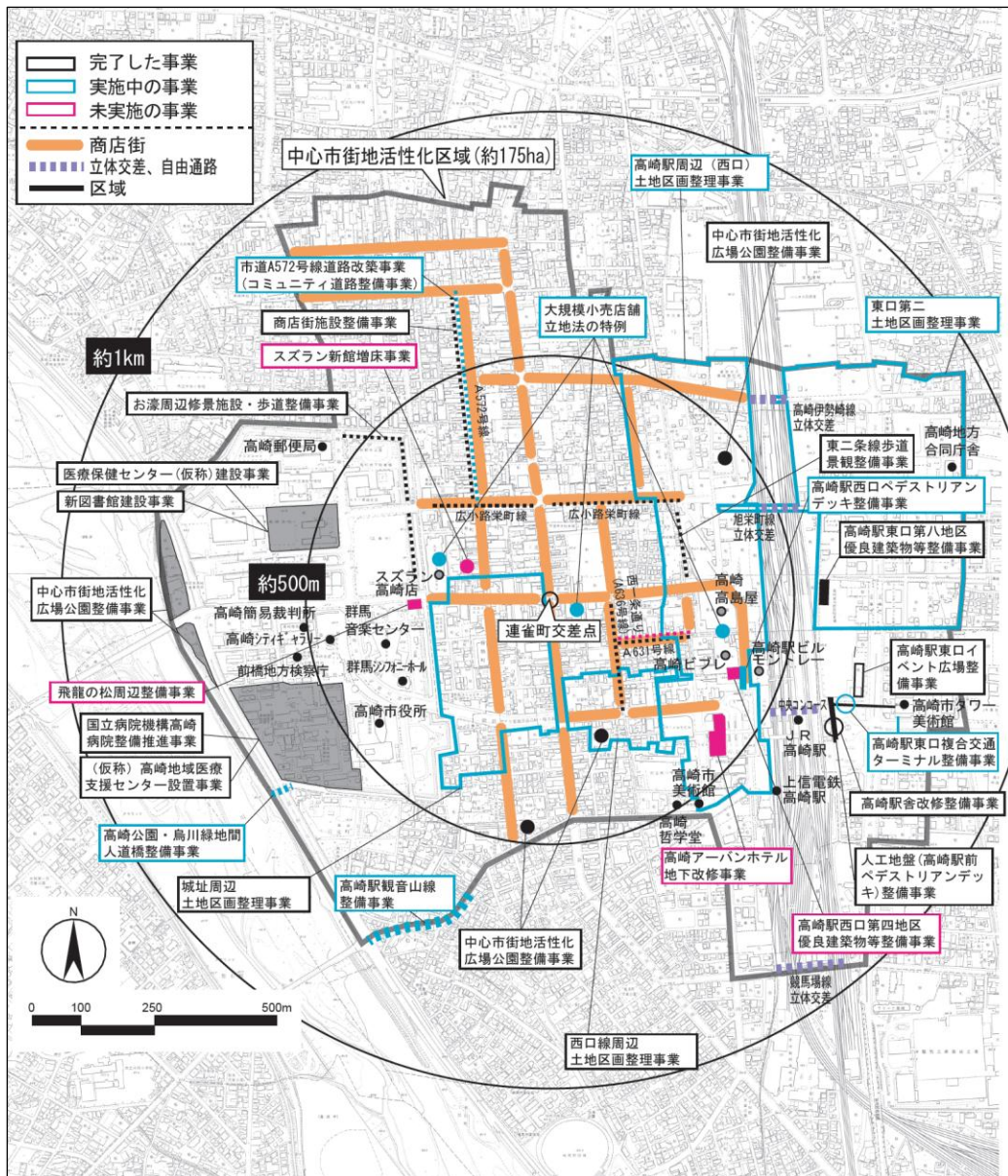
項目	完了(A)	実施中(B)	A+B	未実施(C)	合計(A+B+C)
市街地の整備改善	13	6	19	3	22
都市福利施設の整備	4	0	4	1	5
居住環境の整備	4	0	4	0	4
商業活性化	8	28	36	2	38
一体的推進	0	4	4	0	4
合計	29	38	67	6	73

■事業リスト

事業の 実施 区分	事業区分	事業名
完了	市街地の整備改善事業	高崎駅東ロイイベント広場整備事業
		人工地盤(高崎駅前ペDESTリアンデッキ)整備事業
		お濠周辺修景施設・歩道整備事業
		市道 A631 号線整備事業
		西一条通り整備事業
		高崎駅舎改修整備事業
		東二条線歩道景観整備事業
		高崎駅東口第八地区優良建築物等整備事業
		市道 A636 号線電線共同溝整備事業
		中心市街地活性化広場公園整備事業
		広小路栄町線電線共同溝整備事業(コミュニティ道路整備事業)
		西口線周辺土地地区画整理事業
		城址周辺土地地区画整理事業
	都市福利施設の整備事業	医療保健センター(仮称)建設事業
		新図書館建設事業
		国立病院機構高崎病院整備推進事業
		(仮称)高崎地域医療支援センター設置事業
	居住環境の整備	医療保健センター(仮称)建設事業(再掲)
		新図書館建設事業(再掲)
		国立病院機構高崎病院整備推進事業(再掲)
		(仮称)高崎地域医療支援センター設置事業(再掲)
	商業活性化の事業	商都フェスティバル
		高度複合都市実現及び新産業インキュベータ構築による商業活性化・都市型知財産産業育成のための営み支援・人材育成
		商店街環境施設整備事業
		まちなか魅力発信事業
		特産品開発促進事業
		中心市街地まちづくり活動団体支援事業
		ミュージック高崎ジャパン
		高崎駅東口第八地区優良建築物等整備事業(再掲)
実施中	市街地の整備改善事業	高崎駅周辺(西口)土地地区画整理事業
		市道 A572 号線道路改築事業(コミュニティ道路整備事業)
		高崎公園・烏川緑地間人道橋整備事業
		高崎駅観音山線整備事業
		東口第二土地地区画整理事業
		高崎駅西口ペDESTリアンデッキ整備事業
	商業活性化の事業	大規模小売店舗立地法の特例
		商店街活性化支援事業(コミュニティシネマ活動支援事業)
		中心市街地商業活性化支援事業

実施中	商業活性化の事業	ようこそ高崎人情市
		たかさきスプリングフェスティバル
		高崎マーチングフェスティバル
		高崎ストリートライブ
		高崎まつり
		たかさき能
		高崎えびす講市
		高崎映画祭
		たかさき食文化情報発信事業
		高崎商都博覧会
		高崎バル
		商店街活性化(高崎駅西口周辺にぎわい創出支援事業)
		商店街環境施設整備事業
		中心市街地商業者創業支援事業
		中心市街地通行量動向調査事業
		後継者対策事業
		中心市街地活性化対策資金融資事業
		フィルムコミッション事業
		たかさき春まつり
		高崎音楽祭
		群馬交響楽団定期演奏会
		高崎市民美術展覧会
		高崎まちなかオープンカフェ推進事業
		高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業
		高崎市まちなか商店リニューアル助成事業
	一体的推進事業	高崎駅東口複合交通ターミナル整備事業
		市内循環バス「ぐるりん」市街地循環路線運行事業
		まちなか誘導サイン事業
		市内循環バス「ぐるりん」路線等の見直し
未実施	市街地の整備改善事業	飛龍の松周辺整備事業
		高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業
		市道 A631 号線歩道整備事業
	都市福祉施設の整備事業	高崎アーバンホテル地下改修事業
	商業活性化の事業	高崎駅西口第四地区優良建築物等整備事業(再掲)
		スズラン新館増床事業

■第1期基本計画に掲載された事業の実施状況



[ソフト事業及び位置を特定できない事業]

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化支援事業（コミュニティシネマ活動支援事業） ・商店街活性化（高崎駅西口周辺にぎわい創出支援事業） ・中心市街地商業活性化支援事業 ・ようこそ人情市 ・たかさきスプリングフェスティバル ・高崎マーチングフェスティバル ・高崎ストリートライブ ・高度複合集積都市実現及び新産業インキュベータ構築による商業再活性化・都市型知産業育成のための営み支援・人材育成 ・商店街環境施設整備事業 ・中心市街地商業者創業支援事業 ・中心市街地通行量動向調査事業 ・まちなか魅力発信事業 ・後継者対策事業 ・特産品開発促進事業 ・中心市街地活性化対策資金融資事業 ・中心市街地まちづくり活動団体支援事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィルムコミッション事業 ・たかさき春まつり ・商都フェスティバル ・高崎まつり ・ミュージック高崎ジャパン ・高崎音楽祭 ・たかさき能 ・高崎えびす講市 ・たかさき食文化情報発信事業 ・高崎商都博覧会 ・高崎バル ・高崎映画祭 ・群馬交響楽団定期演奏会 ・高崎市民美術展覧会 ・市内循環バス「ぐるりん」市街地循環路線運行事業 ・市内循環バス「ぐるりん」路線等の見直し ・まちなか誘導サイン事業 ・高崎市まちなか商店リニューアル助成事業 ・高崎まちなかオープンカフェ推進事業 ・高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業 |
|---|---|

(2)事業効果の検証

第 1 期基本計画では、「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”」の基本理念の下、活性化の実現に向けた以下の 3 つの目標像を定め、まちづくりを推進してきました。

【目標像 1】高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち
～“商都・高崎”の再生～

【目標像 2】市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち
～広域交流拠点づくり～

【目標像 3】音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち
～文化が薫るまちづくり～

以下に、それぞれの目標像に定めた評価指標から、事業の効果を検証します。

【目標像 1 の評価指標：小売業年間商品販売額】

小売業年間商品販売額は、平成 23 年推計額が 1,172 億円で、計画策定時の当初目標(1,200 億円)に対して順調に推移しています。

これは、大規模小売店舗のヤマダ電機(LABI1 高崎)の立地や、高崎駅東口のイーサイトなどの商業施設の整備による効果が大きな要因になっています。

しかし、リーディングプロジェクトとして位置付けた「スズラン新館増床事業」が景気の低迷を背景に未実施となっていることや、※歩行者・自転車通行量が増加しなかったこと(※次項で説明)が影響し、数値の加算を得ることができませんでした。また、大型店の効果が中心市街地全体に波及されていない限定的な効果という課題も含んでいます。

こうした中、平成 22 年から中心市街地の大型店(スズラン、高島屋、ビブレ、モントレー、ヤマダ電機(LABI1 高崎))、商店街、JR 東日本などが連携し、「高崎商都博覧会」を毎年開催し、スズランのある城址地区と高崎駅周辺地区の両ゾーンをつなぐ商店街との連携を深めるとともに、大型店 5 店舗の共通商品券が当たる「ぐるりんスタンプ抽選会」をはじめとする共同イベントなど、顧客の回遊が図られる仕掛けを展開しており、中心市街地の大型店等の集客を回遊に誘導しています。

また、高崎商都博覧会と連動するように、中心市街地の 100 店舗近くの飲食店が参加する共同イベント「高崎バル」が定期的に行われるようになり、大型店、商店街等が連携し、回遊による集客、売り上げ向上に向けたソフト的な販売促進活動が活発化してきたところです。

【目標像 2 の評価指標：歩行者・自転車通行量（休日）】

歩行者・自転車通行量（休日）は、最新値（平成 24 年調査）が 14,636 人で、計画策定時の当初目標（27,500 人）を達成することができない見込みとなっています。

これは、中心市街地の回遊性の向上を目的とした「ぐるりん都心循環線」の乗降客数や中央図書館の利用者数が伸びている中、この効果と利用者の目的行動が連動せず、波及効果が得られなかったため、想定よりも伸び悩む結果になったと推測されます。

この背景にあるものをぐるりん都心循環線の利用者行動から分析すると、路線にある 21 停留所のうち、「高崎駅西口（40.3%）」、「スズラン前（8.0%）」、「市役所（7.7%）」、「高崎総合医療センター（15.3%）」、「総合保健センター・中央図書館（5.9%）」の利用率が高く、このことから高崎駅を基点として「目的地以外に立ち寄らない」利用者の行動が分かります。

そのため、平成 25 年度に新たな事業として、高崎コミュニティサイクル（高チャリ）を導入しました。高チャリのサイクルポートとぐるりんの停留所を連携させ、回遊性の向上を図ることで点を線に導こうとしています。

【目標像 3 の評価指標：各種文化施設の利用者数の合計値】

各種文化施設は、平成 24 年利用者数が 612,251 人で、計画策定時の当初目標（704,300 人）を下回ります。計画期間中の平均でも、663,723 人となることから、目標を達成することができない見込みとなっています。

これは、中央図書館の中心市街地移転や、美術館、タワー美術館、高崎シティギャラリーでの企画展が成果を上げた一方で、近隣施設での催事開催が複数行われたことによる影響があったものと推測できます。

また、各種文化施設の利用者が、歩行者・自転車通行量にあまり影響を与えなかったことから、その効果が小売業年間商品販売額と同様に、限定的であったと考えることができます。

そのような中、平成 25 年 11 月には、高崎中心市街地のライブハウスやクラブ、カフェに自由に行き来できる大規模回遊型音楽イベントが音楽関係者等からなる実行委員会で開催されました。既存施設におけるイベントに留まらず、中心市街地内をフィールドにした民間主体の取り組みであり、「音楽のある街・高崎」を盛り上げるとともに、目標像 1 に関連する商業サイドの取り組みとも連携することで、中心市街地の回遊と賑わいの創出に向けての動きが期待されます。

(3) 中心市街地の今後の課題

第 1 期基本計画における施策の効果として、高崎駅東口と西口の連携や東西 2 つのコアゾーンと都市軸の形成など、中心市街地活性化の基盤となる新たな骨格構造が形成されたことなどが挙げられます。

しかし、歩行者・自転車通行量の目標達成が厳しいことに象徴されるように、中心市街地の賑わいは未だ十分に回復しておらず、第 2 期基本計画の策定に向けて、以下の課題が残されています。

【課題 1】高崎駅東西のさらなる連携とバランスある開発

高崎駅周辺の開発は、駅中央コンコースの整備を契機として、第 1 期基本計画の期間中に、東口駅前広場、ヤマダ電機(LABI1 高崎)やペDESTリアンデッキの整備が行われたことで駅東西の分断要素が解消され、さらなる東口周辺地区の開発条件が整いました。

これを受けて、第 2 期基本計画では、平成 26 年度末に金沢まで延伸する北陸新幹線や平成 25 年度末に供用を開始する関越自動車道高崎玉村スマート IC、さらに上越新幹線などの既存の交通網とも連動して、周辺都市や広域からの集客需要を確実に獲得するために、高崎駅に近接する(徒歩圏にある)東口周辺地区で計画されている集客施設の整備を積極的に推進し、東西バランスのとれた中心市街地の形成を目指す必要があります。

【課題 2】広域交通アクセスの向上を生かした交流人口の誘引

高崎市のような地方都市は、中心市街地の活性化を図る上で、来訪者(交流人口)の増加を図ることが重要な課題であると言えます。

本市の場合、幸いにも、近年中に北陸新幹線の金沢延伸と関越自動車道高崎玉村スマート IC が供用開始になり、既存の交通網にプラスした広域交通アクセスが飛躍的に向上することから、この千載一遇のチャンスを生かして、広域交流人口の誘引を図る施策を積極的に展開する必要があります。

【課題 3】回遊性の向上による中心市街地全体への活性化効果の波及

広域交流人口を誘引するとともに、来訪者がコンパクトに回遊できるまちを形成し、活性化効果を中心市街地全体に波及させることが重要です。

このため、現在運行している市内循環バスぐるりんやコミュニティサイクルのルート、運行回数、台数の改善や、魅力ある中心市街地の情報を発信し、来街者を誘導、回遊させ、交流と賑わいを創出する方策への取り組みも必要とされています。

【課題 4】住環境の向上による、まちなか居住の促進

交流人口と並んで居住人口も、地方都市の中心市街地活性化の活力源として重要な要素であり、第 1 期基本計画に引き続いて、住環境の向上による、まちなか居住の促進を図る必要があります。

これまで、土地区画整理事業、市街地再開発事業等の基盤整備を積極的に行ってきた結果、中心市街地及びその周辺部では、民間のマンション建設による住宅供給が活発化し、本市の中心市街地の人口は増加しています。

しかし、人口減少時代に入中、まちなか居住の推進を図るには、社会資本の整備などを継続して行い、民間のマンション建設などを誘発する必要がある、さらに、高齢化社会を見据え、若者から高齢者までが一緒になって暮らしやすい環境を整えることで居住の不安を解消するとともに、コミュニケーションが豊富な安全で快適な居住環境づくりが必要です。

【課題 5】商都・高崎の復権に向けた個店・商店街の再生

中心市街地を構成する都市機能の中で、商業は最も重要な要素の一つであり、特に商都・高崎においては、商業活性化は引き続き重要な課題になります。

高崎駅東口のヤマダ電機(LABI1 高崎)は、本社と商業施設、駐車場が一体的に整備され、小売業年間商品販売額の向上に大きな影響を与えましたが、中心市街地全体への効果は限定的で、商店街や個店の衰退が問題となっています。

したがって、商都・高崎の復権に向けて、第2期基本計画においては、第1期基本計画で取り組んできた様々な集客イベントや商店街の魅力向上事業などに継続して取り組むとともに、個店や商店街の再生に向けたきめ細かな支援が必要です。

【課題 6】個性ある中心市街地の形成に向けた高崎の文化特性の活用

中心市街地は、そのまちの個性やアイデンティティを体現するまちの顔であり、第1期基本計画に引き続き、個性ある中心市街地の形成に向けた高崎の文化特性の活用が重要になります。

音楽のある街・高崎の象徴である群馬音楽センターは、群馬交響楽団の本拠地として長年親しまれてきましたが、質の高い音楽を提供し続けるには残響音や舞台の構造など、現状の建物では対応できなくなりました。また、健康増進やスポーツ観戦などの場として建設された中央体育館も老朽化が激しく、本来の機能を果たしているとは言えません。

このような背景から、高崎文化の形成に大きな役割を果たす高崎文化芸術センターや新体育館などの建設を計画しているところであり、早期の整備が必要となっています。

[6] 中心市街地活性化の基本方針

(1) 中心市街地活性化の戦略方針

高崎市の中心市街地は、将来的には本市ばかりでなく、広域圏を対象とした拠点的な中心市街地として、群馬県全体の地域活性化を牽引します。

その実現に向けて、以下に示す長期的な視野に立った戦略方針の下、これまで進めてきた第 1 期基本計画を基礎として、第 2 期基本計画へステップアップします。

■ 第 1 期基本計画の施策成果を生かし、高崎市中心市街地の次のステージへの飛躍を目指す

第 1 期基本計画における施策・事業の最大の成果として、高崎駅東西の一体化や東西 2 つのコアゾーンと都市軸の形成など、中心市街地活性化の基盤となる新たな骨格構造が形成されたことが挙げられます。この成果を生かして、第 2 期基本計画では、活性化の第 2 章として、地方都市における中心市街地活性化の根本的課題である来訪者（交流人口＋居住人口）の増加を図りつつ、その活力を中心市街地全体へ波及させることにより、群馬県全体の地域活性化にも貢献する、高崎市中心市街地の次のステージへの飛躍を目指します。

■ 広域交通アクセスの向上と連動して、広域圏から交流人口を呼び込む都市装置として、高崎駅徒歩圏に 3 つの集客施設を整備する

北陸新幹線の金沢延伸や関越自動車道高崎玉村スマート IC の供用開始が間近に迫っており、上越新幹線を含む既存の交通網にプラスした高崎駅周辺の広域交通アクセスは飛躍的に向上することが見込まれます。

これに連動した中心市街地活性化の仕掛けとして、広域圏から交流人口を呼び込む都市装置である「都市集客施設（※参考 1）」、「新体育館（※参考 2）」、「群馬県コンベンション施設（※参考 2）」の 3 つの集客施設を、郊外ではなく戦略的に高崎駅徒歩圏に整備します。

■ 中心市街地活性化協議会のマネジメントにより、高崎駅徒歩圏の集客施設への来訪者を中心市街地全体へ誘引する多様な施策〈おもてなし事業〉を展開する

高崎駅に近接する（徒歩圏にある）東口周辺地区で計画されている集客施設の整備を積極的に推進し、東西バランスのとれた中心市街地の活性化を推進します。この整備により誘引した活性化要素を中心市街地全体に波及させるため、おもてなし事業（※補足参照）をコアとなる事業とし、まちなかの魅力や回遊性を高めつつ、各種の情報発信、連携事業の実施など、多様な施策を積極的に実施します。

これら地域ぐるみの多様な施策を、一体となって効率的・効果的に企画・運営するために、中心市街地活性化協議会によるマネジメント機能を強化します。

【補足】おもてなし事業

- ・音楽関連イベントと商店街の販売促進連携
- ・商店街やまちなかの情報発信による誘引
- ・音楽関係団体やアーティストへの活動の場の提供と育成を行う高崎おとまちプロジェクト
- ・オープンカフェや飲食イベントなどの連携による誘引
- ・ぐるりんと商店街の連携事業
- ・大型店と商店街の連携事業

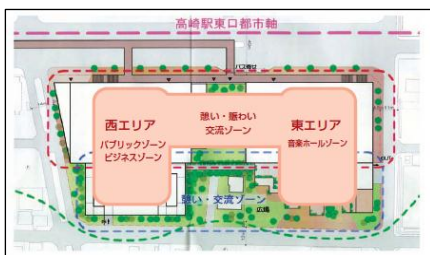
■高崎市の更なる都市発展を牽引する中心市街地の形成を図るとともに、広域圏を対象とした拠点的な中心市街地を形成し、群馬県全体の地域活性化を牽引する

以上のような戦略的な取り組みにより、中心市街地を次のステージへ発展させるため、広域交流人口の誘引をテコに、本市の更なる都市発展を牽引する中心市街地の形成を図ります。

さらに、本市は群馬県の玄関口に位置する中心的な都市であることから、本市ばかりでなく、広域圏を対象とした拠点的な中心市街地とすることにより、群馬県全体の地域活性化を牽引します。

参考 1 都市集客施設

都市集客施設は、上信越・北関東で最も優れた創造・鑑賞・発信機能を持ち、音楽を中心とした施設（多目的ホール等）を東エリアに整備する「高崎文化芸術センター整備事業」と、大きな集客力を持ち、伊勢崎・両毛地域・埼玉県北・新潟県南・長野東信を睨んだ広域的な質感の高い商業・オフィス施設を西エリアに整備する「高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業」等から構成されています。



■都市集客施設の配置イメージ

参考 2 新体育館と群馬県コンベンション施設



■新体育館のイメージ



■群馬県コンベンション施設が整備される旧高崎競馬場

■ 中心市街地活性化の戦略方針

■ 第1期基本計画の施策の成果を生かして、高崎市中心市街地の次のステージへの飛躍を目指す

- 第1期基本計画の最大の成果として、高崎駅中央コンコースの整備による東西口の連携や東西2つのコアゾーンと都市軸の形成など、中心市街地活性化の基盤となる新たな骨格構造が形成された。
- この成果を生かして、第2期基本計画では、来訪者（交流人口＋居住人口）の増加と中心市街地全体への活力の波及を図ることにより、群馬県全体の地域活性化にも貢献する、高崎市中心市街地の次のステージへの飛躍を目指す。

■ 近年中に、高崎駅周辺の広域交通アクセスは飛躍的に向上する

- 北陸新幹線の金沢延伸（平成26年度）
- 関越自動車道高崎玉村スマートICの供用開始（平成25年度）

■ 広域圏から交流人口を呼び込む都市装置として、高崎駅徒歩圏に3つの集客施設を整備する

- 都市集客施設の整備（高崎文化芸術センター整備事業、高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業）（平成26～29年度）
- 新体育館整備事業（平成26～27年度）
- 群馬県コンベンション施設整備事業（平成27～29年度）

■ 高崎駅徒歩圏の集客施設への来訪者を中心市街地全体へ誘引する多様な施策〈おもてなし事業〉を展開する

○ おもてなし事業

（音楽関連イベントと商店街の販売促進連携、商店街やまちなかの情報発信による誘引、ぐるりんと商店街の連携事業、大型店と商店街の連携事業 など）

■ 中心市街地活性化協議会によるマネジメント

まちなかの回遊性を高める

- 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業
 - おもてなし事業
- （ぐるりんと商店街の連携事業、大型店と商店街の連携事業 など）

まちなかの魅力を高める

- 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業
- 個店研修事業
- 高崎まちなかオープンカフェ推進事業 など

■ 広域圏からの来訪者（交流人口）の増加を中心市街地活性化に効果的に繋げ、高崎市のさらなる都市発展を牽引する中心市街地を形成する

■ 広域圏を対象とした拠点的な中心市街地を形成することにより、群馬県全体の地域活性化を牽引する

■中心市街地活性化の戦略方針図

広域圏からの来訪者（交流人口）を中心市街地へ誘引する

高崎駅徒歩圏の集客施設への来訪者を中心市街地全体へ誘引する

○おもてなし事業

（音楽関連イベントと商店街の販売促進連携、商店街やまちなかの情報発信による誘引、ぐるりんと商店街の連携事業、大型店と商店街の連携事業 など）

まちなかの回遊性を高める

○高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業

○おもてなし事業

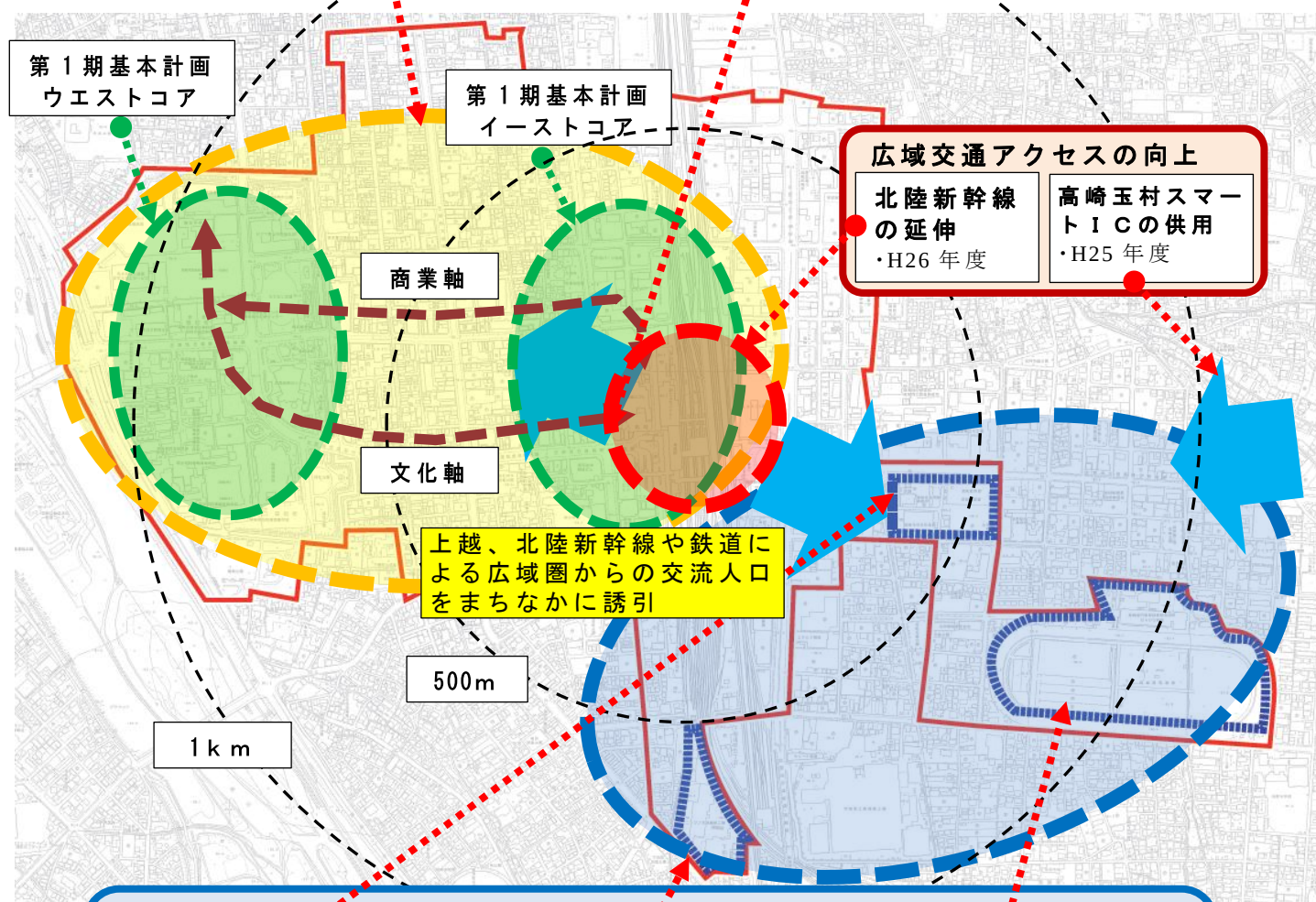
（ぐるりんと商店街の連携事業、大型店と商店街の連携事業 など）

まちなかの魅力を高める

○高崎市まちなか商店リニューアル助成事業

○個店研修事業

○高崎まちなかオープンカフェ推進事業 など



高崎駅東口等に整備される3つの集客施設

都市集客施設（高崎文化芸術センター整備事業、高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業）

・多目的ホール等、商業・オフィス機能等
・H26～29年度

新体育館

・メイン・サブアリーナ、柔剣道場、ウエイトリフティング場、会議室等
・H26～27年度

群馬県コンベンション施設

・大規模展示場、メインホール、国際会議に対応する会議室等
・H27～29年度

(2) 中心市街地活性化の基本方針

【方針1】中心市街地活性化の活力源となる、広域圏からの交流人口の積極的誘引

公共交通アクセスの向上(北陸新幹線の金沢延伸、関越自動車道高崎玉村スマート IC の供用開始)と連動して、広域圏から交流人口を呼び込む都市装置として、高崎駅徒歩圏に3つの集客施設(都市集客施設、新体育館、群馬県コンベンション施設)を整備します。

これにより飛躍的に増加することが期待される広域圏からの交流人口を積極的に誘引し、中心市街地活性化の活力源として最大限有効に活用します。

【方針2】交流人口の回遊促進による、中心市街地全体への活性化効果の波及

高崎駅徒歩圏の集客施設への来訪者(交流人口)を西口の商店街など、中心市街地全体へ誘引するために、まちなかの魅力や回遊性を高めつつ、各種の情報発信、連携事業の実施などの施策を展開し、高崎市の更なる都市発展を牽引する中心市街地の形成を目指します。

【方針3】高崎の文化特性を生かした、まちなかの魅力向上

まちなかの魅力向上を図るために、高崎の文化特性を生かした取り組みを第1期基本計画から継続するとともに、質の高い音楽や文化を提供し、また、まちなかでゆとりの時間を過ごすオープンカフェを整備するなど、高崎の文化特性と中心市街地の活性化を融合させ、品格あるまちの形成を図ります。

【方針4】高崎駅の東西が連携した、相乗効果を発揮する中心市街地構造の形成

第2期基本計画では、中心市街地の区域を、集客施設が整備される高崎駅東口等に拡大し、高崎駅周辺の「センターゾーン」を中心に、「イーストゾーン」、「サウスゾーン」、「ウエストゾーン」の4核構造とし、これらを4本の都市軸で連携する新たな中心市街地の都市構造の形成を目指します。

■中心市街地の都市構造図

